

フィリピン国食品医薬品検定センター  
プロジェクト  
巡回指導調査団報告書

1990年6月

国際協力事業団  
医療協力部

110  
98.5

JICA LIBRARY



1086255(5)

21704

フィリピン国食品医薬品検定センター  
プロジェクト  
巡回指導調査団報告書

1990年6月

国際協力事業団  
医療協力部

国際協力事業団

21704

## 序 文

本プロジェクトは、フィリピン共和国食品医薬品局 (Bureau of Food and Drugs, Department of Health)の強化を通じて同国における食品・医薬品の品質と安全性を確保し、同国国民の健康に資することを目的として、昭和61年7月から5年間の予定で開始された。

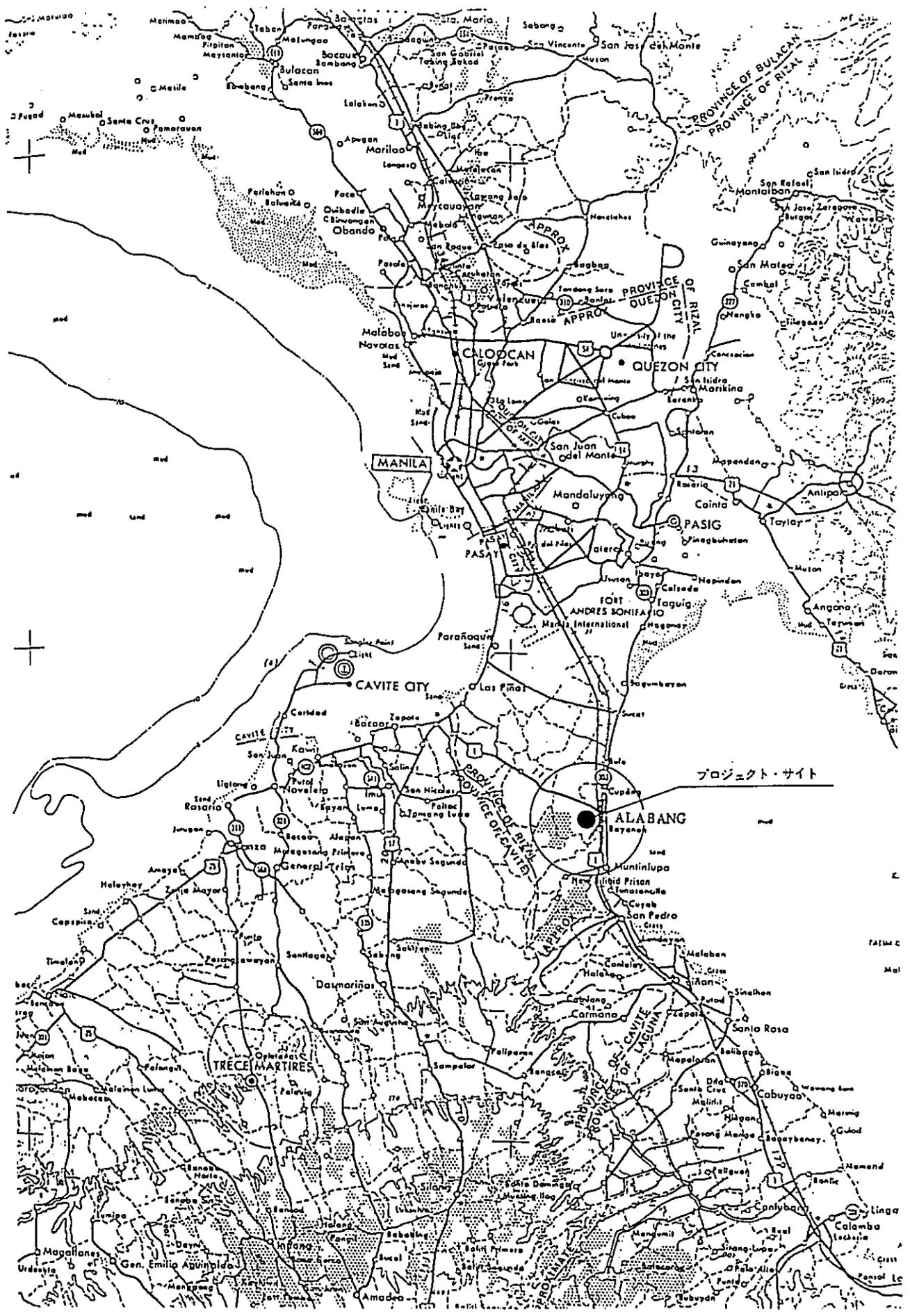
当事業団は、これまでの技術協力内容の調査・評価と、平成2年度の具体的な協力計画について、フィリピン側と協議するため、平成2年2月16日から2月24日まで水谷正寛(財)食品医薬品安全センター秦野研究所副所長を団長とする巡回指導調査団を派遣した。

本報告書は、上記調査団が実施した調査および協議の内容と結果などをとりまとめたものである。

ここに、本件調査にあたりご協力いただいた関係各位に対し深甚なる謝意を表わすとともに、今後とも本件技術協力の成功のために一層のご努力をお願いする次第である。

平成2年6月

国際協力事業団  
医療協力部部长  
近藤建文





比側との協議



ミニッツ署名

# 目 次

	ページ
1. 巡回指導調査団の派遣 .....	1
1.1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1.2 調査団の構成 .....	2
1.3 派遣日程および調査概要 .....	3
1.4 主要面談者 .....	4
2. 総 括 .....	7
3. 暫定実施計画の進捗状況 .....	9
3.1 動物飼育・管理部門 .....	9
3.2 動物実験部門 .....	10
3.3 微生物部門 .....	11
3.4 理化学分析部門 .....	11
3.5 食品・医薬品監視・審査部門 .....	13
4. 暫定実施計画の見直しと平成2年度協力実施計画 .....	15
4.1 動物飼育・管理部門 .....	15
4.2 動物実験部門 .....	15
4.3 微生物部門 .....	15
4.4 理化学分析部門 .....	21
4.5 食品・医薬品監視・審査部門 .....	22
—— 資 料 ——	
I. BFAD予算表 .....	27
II. BFADスタッフ名簿 .....	29
III. BFAD蔵書リスト .....	38
IV. 会議議事録（1990年2月22日総括協議） .....	48
V. ミニッツ .....	60

# 1. 巡回指導調査団の派遣

## 1.1 調査団派遣の経緯と目的

### (1) プロジェクトの概要および経緯

#### ① 名称

和文：フィリピン国食品医薬品検定センタープロジェクト

英文：The Food and Drugs Laboratories Project

#### ② R/D署名日：昭和61年7月25日

#### ③ 協力期間：昭和61年7月25日～平成3年7月24日

#### ④ フィリピン側関係機関：保健省食品医薬品局 [B F A D]

(Bureau of Food and Drugs, Department of Health)

#### ⑤ 日本側協力機関：(株)食品薬品安全センター

厚生省

国立衛生試験所

大阪府環境保健部薬務課

#### ⑥ 経緯：フィリピン国における食品医薬品検定業務は、B F A Dにより実施されているところ、近年のめざましい食品・医薬品産業の発展を背景に、国民の健康に密接に結びつく食品・医薬品の品質と安全確保についての政策促進のため、わが国へ技術協力（および関連施設建設に係る無償資金協力）要請越した。

これに対して我が方は、60年1月の事前調査団、61年7月の実施協議調査団派遣により、以下の各分野につきプロジェクト方式技術協力を開始した。①実験動物の飼育管理、②動物実験、③微生物学、④食品理化学分析、⑤医薬品理化学分析、⑥監視審査

無償資金協力によるB F A D新実験棟も昭和62年4月に開所され各分野での本格的な技術移転が進行しているところである。

### (2) 調査団派遣の目的

昭和61年度における技術協力の動きは、R/Dが年度半ばに署名されたこともあり、比側による各種要請書の提出作業・日本側における詳細の協力計画の詰め作業についやされたが、62年度に入ってからB F A Dの開所に合わせ長期専門家を派遣し、実質的な技術移転がスタートした。その後、昭和62年12月に計画打合わせ調査団、昭和63年12月に巡回指導調査団を派遣し、技術協力進捗に伴う協力実施計画の見直し・調整を行なったところであるが、本年度はプロジェクトの第4年次にあたり、これまでのプロジェクト進捗状況の確認・評価と、今後（特に平成2年度）の協力計画を、フィリピン側と協議のうえ策定することを目的として調査団を派遣した。

### (3) 調査事項

#### ① プロジェクト進捗状況の確認と評価

- ・プロジェクト全体および分野別の活動状況および目標達成度
- ・専門家派遣の成果（移転技術の定着と応用）
- ・研修員受入れの成果（定着性、知識・技術の応用）
- ・機材供与の成果（活用とメンテナンスの状況）
- ・両国の実施体制

#### ② 平成2年度実施計画の策定

- ・専門家派遣
- ・研修員受入れ
- ・機材供与

### (4) 調査方法

#### ① 施設（BFAD）の視察

#### ② 比側カウンターパートとの面談

#### ③ 派遣中専門家との面談

#### ④ 比側責任者との協議

## 1.2 調査団の構成

団長：水谷 正寛（微生物および総括）

（財）食品薬品安全センター秦野研究所副所長

団員：武田 明治（食品および医薬品理化学分析）

国立衛生試験所

環境衛生化学部長

団員：今井 清（動物飼育管理および動物実験）

（財）食品薬品安全センター秦野研究所

病理学研究部第一研究室長

団員：藤井 恭二（食品・医薬品監視審査）

厚生省生活衛生局

食品保健課衛生専門官

団員：江頭 栄二（企画調整）

国際協力事業団

医療協力部医療協力課職員

### 1.3 派遣日程および調査概要

日順	月 日	曜	調 査 概 要
1	2月16日	金	<p>移動 東京発PR-431 マニラ着</p> <p>JICA事務所表敬</p> <p>宮本事務所長・小澤職員へ調査方針等につき説明</p> <p>大使館表敬</p> <p>岡本書記官へ調査方針等につき説明</p>
2	17日	土	<p>派遣中専門家との打ち合わせ</p> <p>調査団員、氏家リーダー、田坂調整員、三浦専門家、西垣専門家、中曾専門家でプロジェクトの進捗状況・問題点・調査方針につき協議</p>
3	18日	日	資料整理・調査団内打ち合わせ
4	19日	月	<p>食品医薬品局（BFAD）訪問</p> <p>・Dr. Gonzalez BFAD局長、Alba Laboratory長、Castillo総務部長に表敬、調査方針・調査日程打合わせ</p> <p>・BFAD各セクションの視察</p> <p>フィリピン国保健省表敬</p> <p>・Mr. Mario M. Taguiwalo (Undersecretary), Dr. Linda Milan (Director, Foreign Assistance Coordination Service), Dr. Quintin Kintanarへ調査方針等につき説明</p> <p>NEDA (National Economic Development Authority)表敬</p> <p>・Dr. Loreto Cabanos (Chief, Social Development Division)へ調査方針等につき説明</p>
5	20日	火	<p>第一回協議（於：BFAD）</p> <p>・総括協議</p> <p>Gonzalez局長はじめ各部門（Division）の長、調査団、専門家が出席し、プロジェクト進捗状況の確認、プロジェクトの実績評価</p> <p>・部門別協議</p> <p>以下の各部門に別れて、これまでの実績・問題点とその対処方針などを協議</p> <p>1. 動物飼育・管理部門、動物実験部門および微生物部門</p> <p>水谷団長、今井団員、西垣専門家、中曾専門家、Gutierrez 実験動物室長、Dy微生物室長</p>

5	20日	火	<p>2. 食品理化学分析部門および医薬品理化学分析部門（化粧品分析を含む） 武田団員、三浦専門家、Lucero食品室長、Lorenzo化粧品室長、Elvina医薬品室長、Martin毒性室長、Parce Research室長</p> <p>3. 食品・医薬品監視・審査部門 藤井団員、Barros Regulation Division I長、Alcantara Regulation Division II長、Caballero Drug Information Unit 長</p> <p>4. 運営管理部門 江頭団員、Castillo総務部長、Albaラボ長</p>
6	21日	水	<p>第二回協議（於：BFAD）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部門別協議</li> </ul> <p>前日と同様に部門別に別れて、平成2年度協力実施計画（専門家派遣、研修員受け入れ、供与機材リストの作成等）につき協議</p>
7	22日	木	<p>第三回協議（於：BFAD）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総括協議</li> </ul> <p>Gonzalez局長はじめ各部門（Division）の長、調査団、専門家が出席し、これまで部門別に協議された内容を再確認のうえ、ミニッツ（案）・その他検討事項につき協議</p>
8	23日	金	<p>第四回協議（於：BFAD）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Gonzalez局長はじめ各部門（Division）の長、調査団、専門家および小澤JICA事務所職員が出席し最終総括のうえミニッツに署名</li> <li>・JICA事務所報告 宮本事務所長・小澤職員へ調査結果につき説明</li> <li>・大使館報告 岡本書記官へ調査結果につき説明</li> </ul>
9	24日	土	<p>移動 マニラ発14:25 PR-432 東京着19:15</p>

#### 1.4 主要面談者

<フィリピン側>

(National Economic Development Authority)

Chief, Social Development

Dr. Loreto Cabanos

(Department of Health)

Undersecretary of Health & Chief of Staff Mr. Mario M. Taguiwalo

Chief, Foreign Assistance Coordination Service Dr. Linda L. Milan

(Bureau of Food and Drugs)

Director Mrs. Cecile P. Gonzalez

Head, Legal Information & Compliance Division Atty. Lorna Frances Cabanlas

Head, Administrative Division Mr. Rodrigo A. Castillo

Head, Product Service Division Ms. Juliet Alcala

Head, Regulation Division I Ms. Virginia O. Barros

Head, Regulation Division II Ms. Teodra N. Alcantara

Head, Laboratory Service Division Ms. Ofelia M. Alba

Physico-Chemical Section

• Chief, Drug Ms. Elisea Elvena

• Chief, Food Ms. Josefa Lucero

• Chief, Antibiotics Ms. Alicia Salazar

• Chief, Cosmetics/HHS Ms. Alicia Lorenzo

Chief, Research Section Ms. Carmina Parce

Chief, Microbiology Section Ms. Isabel Dy

• Chief, Toxicology Ms. Rosario Martin

Chief, Experimental Animal Section Dr. Oscar Gutierrez

<日本側>

(食品医薬品検定センタープロジェクト派遣中専門家)

チームリーダー 氏家 淳雄

調整員 田坂 厚

動物飼育管理専門家 中曾 正次

生物検定・毒性試験専門家 西垣 敏明

医薬品分析専門家 三浦 孝子

食品監視審査専門家 中嶋 建介

医薬品監視審査専門家 中塚 宗次

”

織田 美夫

(JICAフィリピン事務所)

所長

宮本 守也

次長

大島 勝彦

副参事

小澤 勝彦

(在フィリピン日本大使館)

2等書記官

岡本 浩二

## 2. 総 括

当調査団の目的は、①本プロジェクトの進捗状況の確認と評価、②平成2年度実施計画の策定と大きく2つに分けることができる。前項1.3の調査日程のとおり調査を実施し、巻末資料Ⅰのミニッツに日比双方にて署名した。分野毎の詳細な報告は、第3項以下に記載するが、主な討議内容は以下のとおり。

- (1) プロジェクト開始から平成2年2月までの間ミニッツのアネックスⅠのとおり専門家派遣と研修員受け入れが実施された。機材供与実績については、非常に膨大となるため割愛したが、技術移転のために効果的な機材が供与され、比側の機材管理状況も良好である。総じて、本プロジェクトは順調に進んでいる。
- (2) 比国の「国家医薬品政策」(National Drug Policy : 1987年発表)により食品医薬品局(B F A D)には非常に重要かつ多大の課題が課されており、本プロジェクトにも影響を与えている。本プロジェクトの展開については、基本的には当初のR/Dに基づいて進行する事で合意したが、技術協力体制としては当初の計画を逸脱しないようにしながらも、B F A Dの近い将来のために最も効果的な協力の方針をとるように努力する事とした。
- (3) 平成2年度の協力計画についてはミニッツのアネックスⅢのとおり合意した。
- (4) 日本側から比側に対する要請事項は以下のとおりである。
  - ① B F A Dの各部門および各セクションに運営管理に十分な予算を措置する事。
  - ② 人員の配置についても各セクションの業務量に応じて適正な数のカウンターパートを配置する事。
  - ③ 日本で受け入れた研修員の修得した技術が、カウンターパートの配置転換等によりB F A Dの運営にすぐには生かされない場合が過去にあったため、研修員の修得技術のより効果的で速やかな伝播を希望する事。

右記3点については比側より可能な限りの努力をする旨の回答を得た。

- (5) 比側から日本側に対する要望事項は以下のとおりである。
  - ① 医薬品監視および抗生物質に関する研修員の受け入れ
  - ② 蒸留装置、除湿機および監視・審査用の車を供給してほしい。右記①については、平成2年度の研修員受け入れ枠は4名でありすでに他の分野で決定している点を確認したが、比側からの強い追加希望があったため、日本に持ち帰り検討する旨を伝えた。②についてはいずれも供与機材としての供与を検討する事とし、除湿機と監視・審査用の車は平成2年度供与機材リストに載せた。
- (6) 日比双方にて協議のうえ、平成2年度の供与機材リストを作成し、日比双方の担当者がサインを行なった。しかしながら、予算額の範囲内でおさまるよう各機材の優先度等による最終調

整が必要である。供与機材の最終的な決定は日本側（特に派遣中専門家）の助言により、比側が行う事とした。

### 3. 暫定実施計画の進捗状況

#### 3.1 動物飼育・管理部門

動物飼育・管理部門でマウス・ラットおよびウサギの飼育ならびに繁殖を開始してからほぼ2年を経過したが、現在のところ動物の管理に関しては感染症を疑わせる様な事故もなくほぼ順調に経過している。しかし、ウサギの繁殖に関しては哺育率の低下（特に生後3～5日目の死亡率が目立つ）が著明でbreederとしての動物を確保するのも困難な状況である。この点に関しては、BFAD側でも原因を究明すべく種々の努力をしているが、まだその原因が明らかにされておらず、日本からウサギの繁殖についての専門家を派遣して早急に対策を講じる必要があると思われる。後述のように、本年度に入ってウサギを用いた発熱性試験の件数が急速に増加し、このために良質のウサギの供給が必要となるが、現在現地産のコンベンショナルなウサギを自家繁殖して実験に供している。しかし、これらのウサギはコクミジウムをはじめとする多くの病原体の不顕性感染があり、安定した実験成績を得るため、あるいは他のSPF動物への感染を防止するためにも、1日も早く清浄なウサギの供給が必要である。

マウス、ラットの生産・維持管理は順調に行われているが、1989年10月からの西垣専門家の派遣により、動物の使用数が著明に増加したため、本格的な増産体制に入った。しかし、マウス・ラットの繁殖が本格化するまでは生産調整をしていたこともあり、breederの週齢が高くなっているため妊娠率が低下しているため、現在の需要に応じるためには再度breederを導入する必要がある。早急にbreederの送付を検討してほしいと西垣専門家から要望があった。飼料の自家製造も順調に行われているが、原料を発注してから入荷するまで約3ヶ月を要し、実験動物数も急激に増加しているため、それに伴って飼料代も約2倍に達している。なお、現在、理化学分析部門の協力を得て飼料の化学的分析を実施している段階であるが、原料に大量の農薬が混入している可能性が示唆されており、分析結果がまとまり次第早急に対策を検討するとの事であった。

実験動物の検疫に関しては、現時点で緑膿菌の検出が可能となったが、さらに細菌学的あるいは血清学的手法を用いてモニターする必要がある日本でのカウンターパートの研修と動物検疫に関する短期専門家派遣の要請があった。

動物飼育施設的环境条件について昨年度提起された問題点のうち、動物飼育室の空気取り入れ口にHEPAフィルターを設置する件に関しては、動物実験が本格化した現在においても感染症を疑わせる所見が認められていないので、しばらく現状のまま様子を見ることとなった。また繁殖飼育室の排気口にフィルターを取りつけたことで、室内の空気圧に変調が生じたことから、昨年度調査団派遣時に排気用の換気扇の設置が検討されたが、エアコンユニットのフィルターの前面にフィルター清掃の窓をあけ、定期的にフィルターを掃除することで一応問題点は解決された。

したがって、換気扇を取り付ける必要はないと判断し、現状のままなおしばらく様子を見ることとした。アリ対策として、駆虫薬を使用した結果、一時完全に駆除された様にみえたが、現在再びアリの発生がみられており、さらに白アリによる建造物の被害も出はじめているので、今年度中に再度薬剤による駆虫を行う予定である。専門家と良く相談して、実験動物への影響を充分配慮した上で実施するよう要望した。

### 3.2 動物実験部門

1989年10月から動物実験長期専門家を派遣し、従来から実施していた発熱性試験、プランクトン毒（貝毒）の検査に加え、急性毒性試験、皮膚一次刺激性試験等の技術指導を開始したが、それにともない検体数も急増し、1989年1月から11月までの試験検体数は、発熱性試験123件、急性毒性試験35件、ヒスタミン試験5件、皮膚一次刺激性試験6件、インシュリン試験3件、プランクトン毒の検査196件、診断用色素の染色性に関するin vitro試験4件、計372件におよんでいる。したがって動物実験部門においても短い期間の間に着実に能力の向上がみられ、本プロジェクトの貢献度はきわめて大きいと判断する。

現在動物実験のための飼育室の空調は、繁殖用の飼育室とは別系統の設備で維持されているが、昨年8月頃から、午後4時頃から翌日朝10時頃までの間の飼育室内の温度が約4～5度上昇し、これに伴って湿度も90～100%近くに達する状態が続いている。このような動物飼育環境下では、今後さらに動物数が増加し、飼育期間も長期化すると、試験成績の信頼性に大きな影響を及ぼす可能性も考えられ、また感染症が蔓延する原因にもなりかねないので、できるかぎり早期にその原因を調査することとした。

動物実験長期専門家が関与して以来、新たに2人の技術者に対して、毒性試験業務に必要な各検査に係る技術指導を行っているが、特に血液学的検査については赤血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値、白血球数、白血球分類、血小板数の測定が用手法で測定可能となっており、専門家による技術指導も細部にわたって着実に実施されている。次項で述べるが、今後の計画として、急性毒性試験への病理学的なものの見方、考え方の導入、亜急性毒性試験の実施が予定されているが、そのためには生化学的検査技術の習得、病理標本作製のための技術の習得が急務であり、短期専門家派遣の要請（1990年に病理標本作製のための専門家2ヶ月間位）も比側からあったが、速やかに大量の検査材料を処理するための自動化、機械化を検討する必要があると考えられ、実際に生物検定業務が開始されてから約1年間に前述の試験が可能になった点については、B F A D側のカウンターパートDr. Oscar Gutierrezをはじめとする職員と専門家が一体となって努力した賜物であり、十分に評価されるが、理化学分析部門と比較すると機材の整備が大巾におくれており、早急にその対策が必要である。

### 3.3 微生物部門

この部門は、本プロジェクト開始以前から、比側の実績・経験があり、基礎技術の基盤があった事より、これまでの短期専門家の派遣、研修員の受入れ、機材の供与により、技術移転は、順調に進捗している。2室を有しているが、以下各室の状況を述べる。

#### ① 食品微生物室

この室では室長以下7名の構成で主として食品（加工食品）と医薬品（シロップ、懸濁剤を含む）の微生物汚染の検査を担当している。1989年1月から12月までの試験検体数は6,649(内訳：収去1,087、食品登録3,192、医薬品登録1,083、政府買上げ449、告訴23、輸出関連410、個人依頼135、化粧品70)の多数におよんでいるが、菌の検出の有無を調べる程度のものであり、菌の分離・同定については、将来の課題としている。本プロジェクト開始以前からの長年の検査経験が基礎にあることから、この部門には格別の問題はなく、業務は順調に進行しているようである。

最近、日本での研修を終えて帰国した2名のスタッフが中心となって、一部の食中毒細菌、病原性細菌の検査が行われるようになり (*Vibrio parahaemolyticus*, *Bacillus cereus*, *E. coli*, *Salmonella*等)、またその他の食中毒細菌(*Listeria*, *Campylobacter*, *Clostridium*等)についても培地、材料が入手でき次第、検査を開始する予定である。この場合の問題点として、現地ではDifco製品は入手できるが、その他のメーカーのものは入手困難なため、比側から培地等の日本からの供与の強い要望があった。教科書通りの処方では、将来、日本の援助が終了時、産地が供給できなくなり日常検査ができないものがでてくることになるので、現地で購入できない培地の代替えについて検討することを強く要望した。

#### ② 抗生物質室

この室では室長以下11名の構成で抗生物質の理化学的、微生物学的試験、無菌試験（別表参照）を担当している。業務の中心は力価試験である。1989年1月から12月までの試験検体数は、理化学的、微生物学的試験については16,826、無菌試験については1,192で、年年増加の傾向にある。日本で研修を終え帰国した研修生により、近代的化学分析法が導入されつつある。

### 3.4 理化学分析部門

#### 3.4.1 食品理化学分析部門

後述する医薬品理化学分析部門と共に主要な業務を担う部門で、医薬品理化学分析部門に次ぐ人員（研究員10、研究補助員3、事務員1）を擁しており、食品および食品添加物に関する試験・検査業務に従事している。主に食品成分及び微量成分の分析、理化学的性状並びに防腐剤、抗酸化剤及び着色剤等の食品添加物を対象としている。

分析機器類の整備は医薬品理化学分析部門と共に最も進んでおり、保守管理も全般的には良好で、機器類の有効利用が成されつつある。長期専門家および短期専門家の現地に於ける熱心な技術指導と助言及び機器類の整備と保守・管理に果たした役割は非常に大きい。

これまで研修員2名が当部門から来日し研修を実施したが、配置替えにより既に他の部門に移動している。研修員が習得した基本的技術は、当部門に定着しているものの、知識技術の応用という点から、カウンターパートの配置替えは望ましくない。

#### 3.4.2 毒性部門

この部門は生物系ではなく、化学的手法による医薬品及び食品関係の容器・包装、医薬用品（具）、残留農薬等の試験・検査業務に従事している。研究員5及び研究補助員2より成り、平成元年度に2名が研修（容器・包装、残留農薬）のために来日した。

業務の移管により当部門の主要分析機器であるECD-ガスクログラフ及びFPD-ガスクログラフが両責任者の話し合いにより食品理化学分析部門から円満に移譲された。

長期専門家および短期専門家の現地に於ける熱心な指導と助言及び機器類の整備と保守・管理に対して果たした役割は非常に大きいと考える。

#### 3.4.3 研究部門

この部門は研究員3名より成り、理化学部門中最も小さい。医薬品および食品分野に於ける新規分析法の開発、既存分析法の改良およびこれらの技術指導、プロジェクト研究の調整、高度の分析技術を要するものの分析等を中心とした試験・研究業務を担当し、理化学試験・検査部門の遊軍的性格を持つセクションである。

#### 3.4.4 医薬品理化学分析部門

NDP（National Drug Policy）により国家医薬品政策の方向付けがなされて以来、食品・医薬品局、理化学試験・検査部門の医薬品類の品質保持及び監視に占める役割分担が増大し、特に、当部門の医薬品類の品質保持及び監視面での理化学試験・検査業務の重要性が増した。

この部門は理化学部門で最大のメンバー（研究員12、研究補助員3、補助員1及び事務員1）を擁しており、医薬品類の品質保持及び監視のための試験・検査業務に従事している。

現在までに機器分析及び標準品製造に関する研修員の日本での研修は既に終わり、帰国後はセクションチーフの補佐として試験業務に中心的役割を果たしている。設置された機器類は概ね良好に稼働し、日常業務に大いに利用されている。研修員の受け入れと専門家の派遣による日常業務の指導の成果が現れ、設置機器類の有効利用がなされている。この場合、研修員帰国後の技術的フォロー及び応用に対する長期滞在専門家の存在は非常に重要である。2名の長期専門家の現地に於ける技術指導と助言及び分析機器類の整備と保守・管理に果たした役割は非常に大きい。

#### 3.4.5 化粧品理化学分析部門

医薬品理化学分析部門から分離・独立した部門（研究員5、補助員1）で、化粧品類の試験・検査業務に従事している。新設部門であるため分析機器類の整備はまだこれからで、高速液体ク

ロマトグラフは平成元年度末に設置される予定であるが、他の機器類や器具類も順次整備されつつある。一方、標準ツール色素や化粧品原料標品の入手に努めているが、困難な状態にある。従って、現在は定性分析や性状に主力をいれている。

平成元年度の機器分析（主に高速液体クロマトグラフ）に関する技術修得のための研修員の受け入れ（色素類や防腐剤の分析）が終了し、帰国した。これまでは、柴崎長期専門家の技術指導により、当部門の分析技術と手法が向上し、分析機器が整備されてきたが、昨年（1989年）12月に派遣した三浦専門家が、引き続き技術指導を行なってきた。

### 3.5 食品・医薬品監視・審査部門

本部門における技術協力は、昭和61年7月に署名されたRecord of Discussion (R/D) 及び Tentative Schedule of Implementation (T. S. I) に基づき、日本側専門家の派遣及びフィリピン側カウンターパートについて次のとおりの実績があり、暫定実施計画どおり進められている。

#### 3.5.1 食品監視・審査部門

##### ① 日本側専門家の派遣について

1988年1月（2週間）、6月（4週間）、12月（2週間）、1989年8月（3週間）及び1990年2月（4週間）の5回にわたり、それぞれ1名ずつ食品監視及び輸入食品監視の専門家（厚生省生活衛生局食品保健課衛生専門官、厚生省神戸検疫所食品監視課監視係長、厚生省成田空港検疫所食品監視課指導係長、厚生省門司検疫所食品監視課下関分室、厚生省横浜検疫所食品監視課指導係長）を派遣した。

##### ② 比側カウンターパートの日本における研修について

###### ・食品の監視・審査部門

1986年9月から3ヶ月、1988年8月から3ヶ月の2回にわたり、それぞれ1名ずつ日本において訓練を実施している。

#### 3.5.2 医薬品監視・審査部門

##### ① 日本側専門家の派遣について

1988年1月（2週間）、6月（2週間）、12月（2週間）、1989年8月（2週間）及び1990年2月（2週間）の5回にわたり、それぞれ3名、2名、2名、2名、2名の医薬品の監視・審査の専門家〔（大阪府環境保健部薬務課長、大阪府和泉保健所衛生課長及び大阪府環境保健部薬務課主査）、（大阪府環境保健部薬務課審査第2係長及び主査）、（大阪府狭山保健所衛生課長、大阪府環境保健部薬務課審査第2係主査）、（大阪府泉佐野保健所衛生課長、大阪府環境保健部薬務課指導第2係主査）、（大阪府大東保健所衛生課長、大阪府環境保健部薬務課推進係主査）〕を派遣した。

② 比側カウンターパートの日本における研修について

1988年の3月、7月、8月からそれぞれ1ヶ月間、合計4名、1989年の5月から1ヶ月間2名、総計6名のカウンターパートを受入れ、日本において訓練を実施している。

このようなことから、本部門における技術協力については、後述するような問題点はあるにしても、概ね良好な進捗状況と考えられる。

## 4. 暫定実施計画の見直しと平成2年度協力実施計画

調査団と比側との協議により合意した暫定実施計画と平成2年度協力実施計画は、それぞれ表Ⅰ（17ページ）表Ⅱ（19ページ）のとおりであるが以下部門別に述べる。

### 4.1 動物飼育・管理部門

動物の繁殖・飼育に関しては、前項で述べたとおりウサギの繁殖率低下のため breederの維持が困難な状況にあるので、短期専門家を派遣し、ウサギの繁殖技術の向上をはかる事とした。また、マウス・ラットについては新たな breederを導入して、増産をはかり、急増している動物実験に充分対応出来るだけの体制をつくる。モルモットに関しては、現在 breederが導入されて約2ヶ月しか経過していないので、問題点は指摘されていないが、基礎をかためるとともに時期をみて産産体制に入る。なお、マウス・ラットに関しては、品質を保証するために細菌学的あるいは血清学的方法を用いて動物の検疫を実施する必要があるほか、後述の様に医療機器等生体内に埋入する物質の毒性試験系を確立する必要があるので、この目的のためにB F A D側のカウンターパート1名に6ヶ月間日本にて研修を実施し、その後実験動物の検疫に関して短期専門家を派遣する予定である。

### 4.2 動物実験部門

現在、発熱性試験、急性毒性試験（特にLD<sub>50</sub>の算出）、ヒスタミン試験、皮膚一次刺激性試験、インシュリン試験、プラנקトン毒の検査、診断用色素の染色性に関するin vitro試験が可能であるが、試験技術を向上し効率的な試験実施体制を確立する。今後1989年度に研修を受けたカウンターパート研修成果を生かしながら、局所刺激性試験、眼粘膜刺激性試験系を確立する必要がある、医療器材等の生体内埋入材料についてもその安全性を評価するための体制を確立する。さらに、現在比国内にて亜急性毒性試験の要請があり、来年度早々に実施が予定されているほか、今後亜急性毒性試験件数の増加が予想されるが、少なくともO E C Dのガイドラインを満足する試験を実施するためには、血液学的検査の自動化、機械化、血液生化学的検査の導入、病理標本作製のための技術の導入とカウンターパートの教育が必要である。このために病理標本作製を指導するための短期専門家を派遣する予定である。

### 4.3 微生物部門

#### ① 食品微生物室

前項で述べたように、当初計画の中になかった食中毒細菌検査に関する技術移転が1989年度の研修生の受け入れによって実を結びつつあるが、1990年5月には、上記研修生の技術の

表I フィリピン国食品医薬品検定センタープロジェクト暫定実施計画進捗状況(平成2年3月現在)

□ : 実施済  
□ : 計画

	FY1986	FY1987	FY1988	FY1989	FY1990	FY1991
調査団派遣	実施協議 □	計画打合せ □	巡回指導 □	巡回指導 □	エバリュエーション □	
研修員受入れ	動物飼育: '87.3 実験動物飼育・管理 □					
	動物実験: '87.10 生物検定 □			'89.7 生物検定 □	生物検定・毒性試験 □	
	微生物学: '87.10 無菌試験・真菌 □		抗生物質・非菌菌製剤 '89.7 食中毒細菌 □			
	食品分析: '87.5 食品添加物 □		'88.11 抗生物質・非菌菌製剤 □	'89.4 容器包装 □	'90.4 食品添加物 □	
	医薬品分析: '87.3 農薬 □			'89.3 農薬 □	'90.4 食中毒 □	
	監視・審査: 食品【集団】 '86.9 □			'89.4 化粧品分析 □		
	その他: 医薬品分析: '89.2 機器分析・標準品 □				'90.4 安定性試験 □	
		食品【集団】 '88.8 □	食品【集団】 '88.8 □	食品【集団】 '90.3(2) □	食品【集団】 □	【集団】: JICA集団コース
		医薬品【厚生省】 '88.4 (2) □	医薬品【厚生省】 '88.7 '88.8 □	医薬品【厚生省】 '90.3(2) □	医薬品【厚生省】 □	【厚生省】: JICHEL 薬事行政専門家研修
		施設運営管理【無償 C/P】 '88.4 □				
専門家派遣	チームリーダー: '87.4 □	'88.5 □				
	調整員: '87.4 □					
	動物飼育: 86.11 機材計画 □	'87.10 動物管理 □	'88.5 (2) 動物繁殖 (マウス・ラット) □	動物繁殖 (ウサギ) □	動物繁殖 (モルモット) (ウサギ) □	動物繁殖 □
	動物実験: 86.11 飼料設計調査 □	'88.4 飼料製造 動物繁殖 動物管理 □	'89.3 動物繁殖 (ウサギ) □	動物繁殖 (モルモット) (ウサギ) □	動物繁殖 (モルモット) (ウサギ) □	動物繁殖 □
	微生物学: 86.11 機材計画 □	リーダー (カビ・電子顕微鏡) '87.9 □	生物検定・毒性試験 '88.11 □	生物検定・毒性試験 '89.4 '89.10 □	生物検定・毒性試験 '89.10 □	生物検定・毒性試験 □
	食品分析: 86.11 機材計画 □	食品分析 '88.1 (2) □	抗生物質 '88.8 □	抗生物質 '88.8 □	抗生物質 微生物 □	抗生物質 微生物 □
	医薬品分析: 86.11 機材計画 □	'87.5 医薬品理化学試験全般 □	食品添加物 '88.7 □	食品添加物 '88.10 □	容器包装 □	マイコトキシン □
	監視・審査: 88.1 (3) □	食品監視・輸入品監視 '88.1 (3) □	化粧品分析 '88.8 □	化粧品分析 '88.8 □	医薬品理化学分析 '89.8 '89.12 □	安定性試験 □
		医薬品監視・医薬品監視 '88.1 (3) □	食品監視・輸入品監視 '88.6 (2) '88.11 (2) □	食品監視・輸入品監視 '89.8(2) '90.2(2) □	食品監視・輸入品監視 '90.2 (2) □	
			医薬品監視・医薬品監視 '88.6 (2) '88.11 (2) □	医薬品監視・医薬品監視 '89.8(2) '90.2(2) □	医薬品監視・医薬品監視 '90.2 (2) □	
※機材供与	55,000千円	60,000千円	65,000千円	60,000千円 + α千円	(60,000千円)	

※フィリピン側の要請に応じ、日本側予算の範囲内において必要機材を供与する。





確認と指導のため、短期専門家の派遣が合意された。

## ② 抗生物質室

7月には研修生の技術の確認と指導を目的として短期専門家が派遣されることで日・比合意した。1990年度の研修生のわく外として、抗生物質の化学分析技術習得のためさらに1名のカウンターパートの研修（6カ月間）について比側からの強い要請があった。主としてガスマス（GC-MS）の技術習得が目的である。現在、理化学部門には三浦専門家がいて、化学分析について技術指導を行っているが、抗生物質室の化学分析の部分にまで技術指導を受けるのは時間的、エネルギー的にみて不可能だと判断されたため、カウンターパートの研修が考えられた模様である。したがって、研修生の出発は必ずしも必要でないとの比側の意見もあった。いずれにせよ、その必要性とともに検討する事とした。

## 4.4 理化学分析部門

### 平成2年度の協力基本計画

平成2年度は本プロジェクトの最終年度に当り、医薬品の安定性試験、食品添加物及び天然毒物の試験等の研修員受入れ（6ヶ月）が計画され、国立衛生試験所（それぞれ薬品部、食品添加物部及び食品部）で受け入れ、実施される予定である。更に、容器・包装、マイコトキシン及び化粧品の機器分析、医薬品の機器分析と標準品の製造に関する専門家派遣が計画されている。

国内研修は平成2年度の研修で一巡するが、本プロジェクト項目の研修内容にはそれぞれ難易度に差があり、同一スケジュールによる研修には問題があり、修得技術レベルに差異が生ずる。平成2年度については難易度を加味した技術移転と修得のレベルを再評価し、技術研修計画を考える必要がある。

### 分析機器の整備

平成2年度の大規模機器供与計画（案）によれば溶解度試験装置（医薬品理化学分析部門、高速液体クロマトグラフ用電気化学検出器と分離用カラム（化粧品理化学分析部門）、高速液体クロマトグラフ一式（食品理化学分析部門）及びガスクロマトグラフ（FID）一式（毒性部門）の比側要求がある。

- ① 溶解度試験装置：平成2年度の研修計画（医薬品の安定性試験）に合わせた要求である。医薬品の品質保持及び生利用性の基礎データを得るために必要な機器である。
- ② 電気化学検出器（ECD）：BFADに未設置の高速液体クロマトグラフ用の検出器で、カラムは本検出器と併用されるもので、三浦長期専門家の助言により購入を決定したものである。本検出器の整備によりBFADに於ける高速液体クロマトグラフィーによる分析の幅が広くなると考える。
- ③ 高速液体クロマトグラフ一式：食品セクションの業務内容の変更によるガスクロマトグラフの移管に伴う機器整備の一環である。平成2年度の研修計画（食品添加物の定量試験）及

び将来の業務内容を考慮した整備である。

- ④ ガスクロマトグラフ（FID）：ガスクロマトグラフ（ECD及びFPD）とコンビで使用され、有機物質の分析に威力を発揮すると考える。

以上概論として述べたが、各部門別に以下に記す。

#### 4.4.1 食品理化学分析部門

平成2年度のカウンターパート研修に食品添加物の機器による定量分析が予定されており、防腐剤や抗酸化剤等使用制限のある添加物を対象とした研修を比側は希望している。研修修了後の試験・検査業務の幅が広がり、一段の発展が期待できる。

#### 4.4.2 毒性部門

平成2年度には短期専門家派遣により容器・包装の毒性分析に係る技術指導が予定されており、平成元年度に実施したカウンターパート研修の成果をフォローする事により、分析技術の大幅な向上が期待できる。

#### 4.4.3 研究部門

現在はマイコトキシン、特に、アフラトキシンの試験に力を注いでいるが、平成2年度にはアフラトキシン以外のマイコトキシンの分析に関する研修員受け入れ、次いで専門家派遣による現地での技術指導が計画されている。これらの一連の研修指導が実施されればマイコトキシンに関する試験業務の幅が大きく広がり、内容の充実が期待される。

#### 4.4.4 医薬品理化学分析部門

平成2年度には、医薬品の安定性試験に関する研修員受け入れおよび医薬品機器分析・標準品製造に関する短期専門家派遣が予定されており、医薬品の品質保持や生利用性に関する試験業務の一層の発展が期待される。

#### 4.4.5 化粧品理化学分析部門

平成2年度には現地技術指導のために専門家の派遣が計画されている。これら一連の分析機器類の整備及び現地での技術指導が終了すれば、当セクションの分析技術と手法は一段と近代化され、向上すると考える。

これ迄は柴崎長期専門家の助言により分析機器及び器具類が整備されてきたが、三浦長期専門家による機器分析に対する技術指導及び業務に関する基本姿勢の啓蒙が大いに期待される。

#### 4.5 食品・医薬品監視・審査部門

比側の意見、要望等を踏まえ、暫定実施計画の変更の必要性について協議した結果、特に変更の必要性はないとの合意を得た。

しかしながら、本部門においては次のような問題点があることから、技術協力に当たっては、これらを十分に踏まえ、効果的協力方策のあり方に留意した対処が必要であると考えられる。

- ◎ 本部門における技術移転は、いわゆる行政施策の方法論であって、他の部門における専門的

技術とは性格を異にしている。このような技術の移転には、当該国の行政システム、社会構造、国民性等が複雑に関与してくることから、フィリピン国のようにこのような面でわが国とは基本的な違いがある国に対し、日本の行政施策をそのまま移転しようとしても、その効果はあまり期待できないと考えられる。

したがって、日本側専門家のフィリピンへの派遣、フィリピン側カウンターパートの日本での研修のいずれの場合においても、日本の行政施策を基本としつつ、どのようにすればフィリピンの施策にこれを生かすことができるかということと共に考えるという姿勢が必要であろう。なお、協力技術の内容については十分な検討を要するが、念頭に置くべき項目を列挙すれば次のようなものがある。

- ・食品及び医薬品の監視・指導、審査と試験・検査、検定の連携の重要性
  - ・過去に日本で発生した事故等を例として、その対応と得られた教訓及び法律改正を含むその後の改善策
  - ・効果的かつ効率的な監視・指導及び審査の方策（業態の適確な把握、機動力の確保、規格・基準の整備等）
  - ・事故の未然防止のための情報収集の重要性
  - ・監視員の資質向上（研修会等による専門的技術の研さん等）
  - ・営業者の資質向上（講習会、説明会の開催、業界団体等の指導等による自己責任の自覚・高揚など）
  - ・消費者の意識の向上（講習会の実施、広報紙の作成等）
- ◎ 派遣専門家については、本部門に関しては短期派遣であることから、その部門の総合的な知識を有するエキスパートであり、可能であれば複数の人員が望ましい。



# 資 料



BUREAU OF FOOD AND DRUGS  
Annual Budget Allocation

(In Thousand Pesos)

	<u>1 9 8 4</u>	<u>1 9 8 5</u>	<u>1 9 8 6</u>	<u>1 9 8 7</u>	<u>1 9 8 8</u>	<u>1 9 8 9</u>
1. Personal Services	P 3,291	P 4,089	P 5,035	P 6,382	P 9,883	P 10,956
2. Maintenance and Other Operating Expenses	1,957	2,100	2,204	2,107	4,782	5,065
3. Capital Outlay :						
a) Equipment	-	-	240	211	289	500
b) Building/Land Improvement	-	-	-	-	868	750
GRAND TOTAL	P 5,248	P 6,189	P 7,479	P 8,700	P 15,822	P 17,271

Prepared by:

*M. Flores*  
MANUEL W. FLORES  
Budget Officer I

資料 I - ② BFAD 予算表 (1990年)

BUDGET FOR FY 1990  
BUREAU OF FOOD AND DRUGS  
DEPARTMENT OF HEALTH

I.	PERSONAL SERVICES (Salary)	=	₱ 11,028,000.00
II.	MAINTENANCE & OTHER OPERATING EXPENSES (Transportation/ Repair, etc.)	=	₱ 7,571,000.00
III.	EQUIPMENT SERVICES	=	₱ 342,000.00
	Grand Total :		₱ 18,941,000.00

Signed by : 1) Cecile P. Gonzalez, M.D.  
Director, BFAD

2) Manuel R. Flores  
Budget Officer III

Agency Code : A5794

Fund Code : 101

/heidi  
1/26/90

資料Ⅱ BFADスタッフ名簿

Bureau of Food and Drugs  
LIST OF PERSONNEL - 316

I. OFFICE OF THE DIRECTOR= 8

CECILE P. GONZALEZ, M.D.  
Director IV

1. Rosalinda G. Guce, M.D. - Medical Specialist III
2. Rolando R. Angala - Statistician II
3. Imelda R. Mabalatan - Secretary II
4. Eve S. Sahibbil - Clerk II
5. Emelyn Quiambao - Clerk II
6. Marlyn S. Naniong - Utility Worker I
7. Loreto M. Urciada - Utility Worker I

II. DRUG INFORMATION UNIT= 4

1. Elisa T. Caballero - Food-Drug Reg. Officer IV
2. Lourdes P. Cagaanan - Food-Drug Reg. Officer IV
3. Felicisima U. Silva - Information Officer I
4. Evangeline V. Tiongson - Food-Drug Reg. Officer II

III. LEGAL INFORMATION AND COMPLIANCE DIVISION = 10

Atty. Lorna Frances F. Cabanlas  
Attorney V

INVESTIGATION AND LEGAL RESEARCH SECTION

1. Atty. Ferdinand L. Ancheta - Attorney IV
2. Verona B. Bonabese - Information Officer III
3. Illuminada M. Melias - Information Officer I
4. Norma B. Villaresto - Clerk IV
5. Rosemarie B. Torraliza - Attorney III
6. Arturo A. Barrera - Clerk III
7. Norman A. Henson - Intelligence Agent II
8. Marieta U. de Castro - Stenographer I
9. Editha P. Paras - Laboratory Technician I

PUBLIC ASSISTANCE, INFO. AND COMPLIANCE SECTION = 6

1. Nestorio A. Trinidad - Food-Drug Reg. Officer III
2. Danilo T. Aguilera - Intelligence Agent II
3. Ronaldo M. Simbulan - Clerk II
4. Angel B. Algas - Clerk II
5. Pablito P. Ferrer - Laboratory Technician I
6. Amando P. Silangeruz - Clerk II

ADMINISTRATIVE DIVISION = 73

Rodrigo A. Castillo  
Administrative Officer V

Accounting Section

1. Triliza Ma. C. Vergara - Accountant III
2. Rosalina B. Herrera - Accountant I
3. Isabela I. Iscala - Administrative Officer II
4. Fausto R. Quizon, Jr. - Bookkeeper
5. Nelson T. San Juan - Accounting Clerk III
6. Evangelina C. dela Cruz - Accounting Clerk II
7. Caroline B. Flores - Clerk II

Personnel Section

1. Demetria R. delos Santos - Human Resource Mgmt. Officer
2. Elvira D. Mesina - Clerk III
3. Amador B. Buncobra - Clerk II
4. Argelina T. Doroni - Clerk II
5. Eric I. Arao - Clerk II
6. Cristeto G. Diaz - Utility Worker I

Planning and Budget Section

1. Manuel R. Flores - Budget Officer III
2. Orlando C. Campos - Budgeting Assistant

Supply and Property Section

1. Ma. Elena C. Francisco - Supply Officer III
2. Charito E. Manuel - Laboratory Technician I
3. Johnny A. Gutierrez - Laboratory Technician I
4. Antonio L. Martinez - Clerk II

Cash Collection and Disbursement Section

1. Ernesto C. Bernardo - Cashier III
2. Augusto C. Pascual - Cashier I
3. Josephine E. Paclab - Clerk III
4. Cecilia C. Esguerra - Laboratory Technician I
5. Mercy T. Sichen - Cash Clerk I

Records and Communication Section

1. Teresita V. Maliwat - Records Officer I
2. Rogelio C. David - Laboratory Technician I
3. Eric R. Lima - Clerk II
4. Narciso L. Reoa - Clerk II
5. Jonathan P. Romagos - Utility Worker I

SECURITY/DRIVER

1.	Benito C. Tapang	-	Security Guard I
2.	Norberto P. del Rosario	-	Security Guard I
3.	Delfino G. Acebedo	-	Security Guard I
4.	Redolfo C. Constantino	-	Driver II
5.	Oscar R. Abalos	-	Laboratory Aide II

BUILDING & FACILITIES MAINTENANCE SECTION

1.	Roberto A. Zara	-	Information Officer I
2.	Jesus S. Corañez	-	Mechanic III
3.	Zoilo R. Casantuan	-	Mechanic II
4.	Joaquin R. Casantuan	-	Mechanic II
5.	Edgardo F. Mongis	-	Electrician II
6.	Arnel V. Solicito	-	Crafts & Trade Helper
7.	Dominador B. Llarinas	-	Utility foreman
8.	Romeo A. Payad	-	Plumber I
9.	Constancio C. Josen	-	Metal Worker I
10.	Romeo S. Pangilinan	-	Painter I
11.	Lupo S. Santos	-	Machinist I
12.	Edwin A. Payad	-	Crafts & Trade Helper
13.	Virgilio S. Mercado	-	Machinist I
14.	Alex S. Fernandez	-	Carpenter I
15.	Jose L. Oliver	-	Carpenter I
16.	Raymund S. Mendoza	-	Carpenter I
17.	Ulpiano T. Tanco	-	Carpenter I
18.	Avelino E. Padua	-	Carpenter I
19.	Bienvenido A. Datus	-	Carpenter I
20.	Emilio P. Aquino	-	Const. & Maintenance Man
21.	Roman G. Navarro	-	Mason I
22.	Alfredo B. Banta	-	Mason I
23.	Ruperto D. Cruz	-	Precision Tech. I
24.	Alexander M. Solicito	-	Utility Worker I
25.	Ernesto A. Garcia	-	Mechanic I
26.	Simeon P. Tugonon	-	Utility Worker I
27.	Teodoro R. Trinidad	-	Utility Worker I
28.	Warlito Policarpio	-	Utility Worker I
29.	Rogelio C. Rosalio, Jr.	-	Utility Worker I
30.	Romualdo M. Recto	-	Utility Worker I
31.	Roman H. Berja	-	Utility Worker I
32.	Raul Q. Yaneza	-	Utility Worker I
33.	Modesto M. Hinay	-	Utility Worker I
34.	Antonio F. Ledesma	-	Utility Worker I
35.	Francisco C. Tampil	-	Utility Worker I
36.	Emilia O. Evangelista	-	Utility Worker I
37.	Honesto M. Mallorca	-	Utility Worker I
38.	Renato D. Alviz	-	Utility Worker I

PRODUCT SERVICES DIVISION = 31

Julieta C. Alcalá  
Food-Drug Regulation Officer V

DRUG SECTION

1.	Nora L. Leongson	-	Food-Drug Reg. Officer IV
2.	Luzviminda O. Marquez	-	Food-Drug Reg. Officer IV
3.	Paulina R. Cusi	-	Food-Drug Reg. Officer III
4.	Marivic E. Paulino	-	Food-Drug Reg. Officer III
5.	Grace L. Medina	-	Food-Drug Reg. Officer III
6.	Cecilia B. Cruz	-	Food-Drug Reg. Officer III
7.	Alicia O. Osias	-	Food-Drug Reg. Officer III
8.	Marle B. Koffa	-	Food-Drug Reg. Officer II
9.	Judina O. Fabros	-	Food-Drug Reg. Officer II
10.	Therese Irynn R. Gonzales	-	Food-Drug Reg. Officer II
11.	Emma Concepcion M. Santero	-	Food-Drug Reg. Officer II
12.	Virginia Francia R. Canta	-	Food-Drug Reg. Officer III
13.	Ma. Rhoda Jean S. Montero	-	Food-Drug Reg. Officer II
14.	Eden S. Robles	-	Food-Drug Reg. Officer II
15.	Jesusa Joyce N. Cirunay	-	Food-Drug Reg. Officer II
16.	Alma R. Alzona	-	Food-Drug Reg. Officer II
17.	Tomasa G. Gutierrez	-	Food-Drug Reg. Officer I
18.	Emelita C. Romano	-	Clerk III
19.	Rogelio M. Manapat	-	Clerk II
20.	Ricardo B. Carraig	-	Clerk II
21.	Remedios T. Garcia	-	Clerk III
22.	Ma. Angeles R. Jumawan	-	Laboratory Technician I
23.	Analic A. Manipol	-	Laboratory Technician I
24.	Gemma V. dela Cruz	-	Laboratory Aide II
25.	Rosario S. Daria	-	Food-Drug Reg. Officer III

FOOD SECTION

1.	Leonida M. Castillo	-	Food-Drug Reg. Officer III
2.	Ana Eena G. Lagrimas	-	Food-Drug Reg. Officer II
3.	Leola L. Ibias	-	Food-Drug Reg. Officer I

COSMETICS/HOUSEHOLDS HAZARDOUS PRODUCT SECTION

1.	Josefina P. Barahan	-	Food-Drug Reg. Officer III
2.	Olga R. Aragon	-	Food-Drug Reg. Officer II

REGULATION DIVISION I = 45

Virginia O. Barros  
Food-Drug Reg. Officer V

INSPECTION SECTION

1.	Merced A. Uson	-	Food-Drug Reg. Officer IV
2.	Ador A. Abueg	-	Food-Drug Reg. Officer III
3.	Conrado P. Ilagan	-	Food-Drug Reg. Officer III
4.	Hermelina D. Sevilla	-	Food-Drug Reg. Officer III
5.	Ma. Theresa M. Gutierrez	-	Food-Drug Reg. Officer III
6.	Estrellita A. Dulle	-	Food-Drug Reg. Officer III
7.	Eusebia A. Regodon	-	Food-Drug Reg. Officer III
8.	Misaela Q. Neri	-	Food-Drug Reg. Officer III
9.	Gloria S. dela Rosa	-	Food-Drug Reg. Officer III
10.	Dionisia C. Durante	-	Food-Drug Reg. Officer III
11.	Zenaida G. Bumanlag	-	Food-Drug Reg. Officer III
12.	Jesus S. Salamanca	-	Food-Drug Reg. Officer III
13.	Evelyn T. Castolo	-	Food-Drug Reg. Officer II
14.	Virginia A. Estrada	-	Food-Drug Reg. Officer II
15.	Julieta V. Garcia	-	Food-Drug Reg. Officer II
16.	Mary Ann R. Malicse	-	Food-Drug Reg. Officer II
17.	Antonietta C. Modanza	-	Food-Drug Reg. Officer II
18.	Virginia B. Perez	-	Food-Drug Reg. Officer II
19.	Ester M. Robles	-	Food-Drug Reg. Officer II
20.	Lucia S. Valencia	-	Food-Drug Reg. Officer II
21.	Bernadette U. Cainday	-	Food-Drug Reg. Officer II
22.	Teresa V. Miranda	-	Food-Drug Reg. Officer II
23.	Corazon K. Bartolome	-	Food-Drug Reg. Officer II
24.	Jocelyn S. Vargas	-	Food-Drug Reg. Officer II
25.	Katherine B. Blanco	-	Food-Drug Reg. Officer II
26.	Fe E. Sister	-	Food-Drug Reg. Officer II
27.	Cristina A. dela Cruz	-	Food-Drug Reg. Officer II
28.	Daniel S. Rivera	-	Food-Drug Reg. Officer II
29.	Rocelyn N. Calungcaguin	-	Food-Drug Reg. Officer II
30.	Evelyn V. Fernandez	-	Food-Drug Reg. Officer II

LICENSING SECTION

1.	Rosita Y. Caramancion	-	Food-Drug Reg. Officer III
2.	Minerva M. Reynaldo	-	Food-Drug Reg. Officer II
3.	Consolacion H. Valeta	-	Food-Drug Reg. Officer II
4.	Reynaldo H. Joaquin	-	Records Officer II
5.	Bernardita N. Dizon	-	Food-Drug Reg. Officer I
6.	Julita S. Fajardo	-	Food-Drug Reg. Officer I
7.	Lilian P. Alsaybar	-	Food-Drug Reg. Officer I
8.	Ofelia P. Guion	-	Food-Drug Reg. Officer I
9.	Loreta B. Mirasol	-	Laboratory Technician I
10.	Socorro S. de Guzman	-	Clerk IV
11.	Cecilio C. Pineda	-	Clerk II
12.	Grace R. Zacarias	-	Clerk II
13.	Reinalda L. Buan	-	Clerk III
14.	Manuel C. San Juan	-	Clerk II
15.	Rodolfo Rudy O. Relayo	-	Clerk II

REGULATION DIVISION II = 42

Teodora Alcantara  
Food-Drug Reg. Officer V

INSPECTION SECTION

1.	Rizalina A. Opinion	-	Food-Drug Reg. Officer IV
2.	Josefina O. Gaspar	-	Food-Drug Reg. Officer IV
3.	Aurora V. Bernal	-	Food-Drug Reg. Officer IV
4.	Rufina I. Manasala	-	Food-Drug Reg. Officer III
5.	Agapita G. Tuason	-	Food-Drug Reg. Officer III
6.	Matilde M. Gener	-	Food-Drug Reg. Officer III
7.	Marietta M. Bautista	-	Food-Drug Reg. Officer III
8.	Alicia D. Fernandez	-	Food-Drug Reg. Officer III
9.	Merla K. Araña	-	Food-Drug Reg. Officer II
10.	Rhoda Laine D. Manaloto	-	Food-Drug Reg. Officer II
11.	Ma. Socorro G. Cachuela	-	Food-Drug Reg. Officer II
12.	Leonora O. Eco	-	Food-Drug Reg. Officer II
13.	Anne A. Macam	-	Food-Drug Reg. Officer II
14.	Salvacion F. Jose	-	Food-Drug Reg. officer II
15.	Erlinda B. Francisco	-	Food-Drug Reg. Officer II
16.	Gloria W. Peña	-	Food-Drug Reg. Officer II
17.	Ma. Asuncion C. San Juan	-	Food-Drug Reg. Officer II
18.	Lilia A. Garcia	-	Food-Drug Reg. Officer II
19.	Theresa L. Guita	-	Food-Drug Reg. Officer I
20.	Wilhelmina L. Basa	-	Food-Drug Reg. Officer I
21.	Edna H. Casimiro	-	Food-Drug Reg. Officer I
22.	Albina M. Mendoza	-	Food-Drug Reg. Officer I
23.	Celia M. Esmeria	-	Food-Drug Reg. Officer I
24.	Marites G. Arkuino	-	Food-Drug Reg. Officer I
25.	Frances S. Madura	-	Food-Drug Reg. Officer I
26.	Arlyne M. Tumbokan	-	Food-Drug Reg. Officer I
27.	Vilma Portia R. Namoca	-	Food-Drug Reg. Officer I
28.	Agnes P. Arellano	-	Food-Drug Reg. Officer I
29.	Flordeliza C. Abraham	-	Food-Drug Reg. Officer I
30.	Lilia A. Ramirez	-	Food-Drug Reg. Officer I
31.	Ludivina F. Quitevis	-	Food-Drug Reg. Officer I

LICENSING SECTION

1.	Susan M. Yañez	-	Food-Drug Reg. Officer III
2.	Aniceto M. Manayan, Jr.	-	Food-Drug Reg. Officer II
3.	Clara B. Burbos	-	Food-Drug Reg. Officer II
4.	Evangelina D. Sevilla	-	Food-Drug Reg. Officer II
5.	Ofelia C. Pesigan	-	Food-Drug Reg. Officer I
6.	Selya T. Baldonaza	-	Food-Drug Reg. Officer I
7.	Inocencio B. Cabanayan	-	Food-Drug Reg. Officer I
8.	Maricel M. Gaerlan	-	Food-Drug Reg. Officer I
9.	Radel C. Herras	-	Clerk III
10.	Isolde J. Mendoza	-	Food-Drug Reg. Officer II
11.	Ma. Essa C. Tuason	-	Clerk II

LABORATORY SERVICES DIVISION = 97

OFELIA M. ALBA  
Food-Drug Reg. Officer V

1. Naida L. De Ramos - Food-Drug Reg. Officer II
2. Ma. Rowena C. Acabado - Laboratory Aide II
3. Merlito Y. Aguihap - Laboratory Aide II
4. Zenaida G. Viñan - Clerk II

PHYSICO-CHEMICAL SECTION  
D R U G

1. Elisea B. Elveña - Food-Drug Reg. Officer IV
2. Dory B. Duran - Food-Drug Reg. Officer III
3. Jocelyn D. Alcasabas - Food-Drug Reg. Officer III
4. Elenita C. Ong - Food-Drug Reg. Officer III
5. Rose Marceline V. Cruz - Food-Drug Reg. Officer II
6. Nazarita T. Lanuza - Food-Drug Reg. Officer II
7. Zandra T. Bato - Food-Drug Reg. Officer II
8. Edwin J. Villeza - Food-Drug Reg. Officer III
9. Florlita Ma. C. Hernandez - Food-Drug Reg. Officer III
10. Josephine K. Sarau - Food-Drug Reg. Officer II
11. Irene E. Maningas - Food-Drug Reg. Officer II
12. Juvy Pilar P. Mallare - Food-Drug Reg. Officer II
13. Soledad S. Guzman - Clerk III
14. Socorro F. Abalos - Laboratory Technician I
15. Marilou R. Apacible - Laboratory Technician I
16. Dec L. Cunanan - Laboratory Technician I
17. Ana Z. Mañao - Utility Worker I

ANTIBIOTICS

1. Alicia G. Salazar - Food-Drug Reg. Officer IV
2. Lydia G. Silvestre - Food-Drug Reg. Officer IV
3. Leonila A. Agbay - Food-Drug Reg. Officer III
4. Buenaflor R. Balasta - Food-Drug Reg. Officer III
5. Dalisay S. Borlongan - Food-Drug Reg. Officer III
6. Teresita C. Vaño Uy - Food-Drug Reg. Officer III
7. Teresita D. Romero - Food-Drug Reg. Officer III
8. Zenaida T. Baumann - Food-Drug Reg. Officer II
9. Leonora T. Advincula - Food-Drug Reg. Officer III
10. Ma. Lourdes C. Santiago - Food-Drug Reg. Officer II
11. Sylvia B. Villegas - Clerk II
12. Blanca C. Alfonso - Laboratory Technician II
13. Loida M. Isip - Laboratory Technician I
14. Aella A. Recilla - Laboratory Aide II
15. Imelda B. Gomez - Laboratory Aide II
16. Delila E. Sarmiento - Laboratory Technician I

### MICROBIOLOGY SECTION

1.	Isabel M. Dy	-	Food-Drug Reg. Officer	IV
2.	Emma D. Cabello	-	Food-Drug Reg. Officer	III
3.	Evangelina C. Marinay	-	Food-Drug Reg. Officer	III
4.	Almueda B. dela Cruz	-	Food-Drug Reg. Officer	III
5.	Emily Mila P. Malate	-	Food-Drug Reg. Officer	II
6.	Helen Grace R. Lagrisola	-	Food-Drug Reg. Officer	II
7.	Teresita E. Franco	-	Utility Worker	I

### TOXICOLOGY SECTION

1.	Rosario E. Martin	-	Food-Drug Reg. Officer	IV
2.	Marilou U. Martinez	-	Food-Drug Reg. Officer	III
3.	Amelita P. Manalansan	-	Food-Drug Reg. Officer	II
4.	Amado M. Ong	-	Food-Drug Reg. Officer	II
5.	Catalino B. Hizo	-	Food-Drug Reg. Officer	I
6.	Helen A. Balde	-	Food-Drug Reg. Officer	I
7.	Victoriano S. Alejar, Jr.	-	Laboratory Technician	I
8.	Esmeralda F. Martinez	-	Laboratory Technician	I

### RESEARCH SECTION

1.	Carmina J. Parce	-	Food-Drug Reg. Officer	III
2.	Roswena S. Celis	-	Food-Drug Reg. Officer	II
3.	Araceli V. Asis	-	Food-Drug Reg. Officer	II

### FOOD SECTION

1.	Josefa P. Lucero	-	Food-Drug Reg. Officer	IV
2.	Gloria P. Tomboc	-	Food-Drug Reg. Officer	IV
3.	Ma. Fely M. Senfelices	-	Food-Drug Reg. Officer	III
4.	Rossana R. Peralta	-	Food-Drug Reg. Officer	III
5.	Purificacion C. de Guzman	-	Food-Drug Reg. Officer	III
6.	Elvira E. Nano	-	Food-Drug Reg. Officer	II
7.	Felicisima R. Alipio	-	Food-Drug Reg. Officer	III
8.	Virginia D. Garcia	-	Food-Drug Reg. Officer	III
9.	Catherine P. Cruz	-	Food-Drug Reg. Officer	II
10.	Ma. Victoria B. Fabrua	-	Food-Drug Reg. Officer	I
11.	Girly M. Diaz	-	Food-Drug Reg. Officer	II
12.	Leny P. Macawile	-	Clerk	II
13.	Lourdes A. Cruz	-	Laboratory Aide	II
14.	Violeta P. Alvarez	-	Laboratory Aide	II
15.	Antonio T. Tuazon	-	Laboratory Aide	I

### COSMETIC SECTION

1.	Alicia T. Lorenzo	-	Food-Drug Reg. Officer IV
2.	Remedios R. Pascual	-	Food-Drug Reg. Officer III
3.	Editha L. Opuencia	-	Food-Drug Reg. Officer III
4.	Illuminada M. Gilera	-	Food-Drug Reg. Officer II
5.	Erwina Y. Garcia	-	Food-Drug Reg. Officer I
6.	Carmelita H. Cartel	-	Utility Worker I

### EXPERIMENTAL ANIMAL SECTION

1.	Oscar G. Gutierrez, D.V.M.	-	Food-Drug Reg. Officer IV
2.	Alexander B. Cortes, D.V.M.	-	Food-Drug Reg. Officer II
3.	Carlito J. Calderon, D.V.M.	-	Food-Drug Reg. Officer II
4.	Edgar L. Calbitaza, D.V.M.	-	Food-Drug Reg. Officer II
5.	Albino B. Billones	-	Engineer III
6.	Hermelando E. Santua	-	Agricultural Technician II
7.	Romeo M. Payawal	-	Laboratory Technician II
8.	Artemio M. Padilla	-	Laboratory Technician II
9.	Noah L. Castolo	-	Utility Worker I
10.	Raul M. Cervantes	-	Const./Maintenance Man
11.	Willie R. Mesina	-	Utility Worker I
12.	Lito P. Pimentel	-	Utility Worker I
13.	Ricardo M. Castro	-	Utility Worker I
14.	Antonio M. Llenaresas	-	Laboratory Aide II
15.	Antonio F. de los Reyes	-	Utility Worker I
16.	Rizal T. Aguilar	-	Const./Maintenance Man
17.	J D. Diesmo	-	Clerk II
18.	Marian C. Cadenas	-	Laboratory Technician I
20.	Cecilio C. Gonzalez	-	Utility Worker I

90.02.06  
/heidi

Japan International Cooperation Agency  
Bureau of Food and Drugs

## BOOK INVENTORY

Title of Book	Location	Date	Origin
1. Food Chemical Codex	Foods	06.08.88	Japan
2. The International Pharmacopeia	Drug	06.08.88	Japan
2.1 Volume I			
2.2 Volume II			
3. The Merck Index, 10th ed. 1983	Drug	06.08.88	Japan
4. Clarke's Isolation and Identification, 2nd ed. 1986	Antibiotic	06.08.88	Japan
5. Remington's Pharmaceutical Sciences : 1985, 17th edition	Drug	06.08.88	Japan
6. British Pharmacopeia 1980 Addendum 1986, 1982, 1983	Drug	06.08.88	Japan
7. British Pharmacopeia 1980 Vol. I, Vol. II	Drug	06.08.88	Japan
8. Japanese Pharmacopeia	Drug	06.08.88	Japan
9. Food Analysis: Principles and Techniques	Foods	07-08.88	Japan
10. Antinutrients and Natural Toxicants In Foods	Foods	07.08.88	Japan

11. Toxic Constituents of Plant Foodstuffs	:	Toxicology	:	07.08.88	:	Japan
12. Food Microscopy	:	Research	:	07.11.88	:	Japan
13. Official Methods of Analysis of the Association of Official Analytical Chemists, 14th ed. 1984	:	Foods	:	07.08.88	:	Japan
14. Mycotoxins: Formation Analysis and Significance, 1985	:	Research	:	07.08.88	:	Japan
15. Control of Food Quality and Food Analysis	:	Foods	:	07:08:88	:	Japan
16. Product Testing and Sensory Evaluation of Foods	:	Foods	:	07:08:88	:	Japan
17. Food and Beverage Mycology 2nd ed.	:	Research	:	08.02.89	:	Japan
18. Bacterial Toxins, 2nd ed.	:	Research	:	08.02.89	:	Japan
19. Merck Index, 10th ed.	:	LSD	:	08.02.89	:	Japan
20. Isolation and Identification of Drugs	:	Drugs	:	08.02.89	:	Japan
21. Mycotoxins: Formation, Analysis and Significance	:	LSD	:	08.02.89	:	Japan

-----  
LSD - Office of Laboratory Services Division

22. Food Analysis: Principles and Techniques	: LSD	: 08.02.89	: Japan
.Volume 1-Physical Characterization	:	:	:
.Volume 2-Physicochemical Techniques	:	:	:
.Volume 3-Biological Techniques	:	:	:
.Volume 4-Separation Techniques	:	:	:
23. Physical Properties of Foods	: Foods	: 08.02.89	: Japan
24. Toxic Constituents of Plant Foodstuff	: Foods	: 08.02.89	: Japan
25. Food Microscopy	: Foods	: 08.02.89	: Japan
26. Chromatography of Alkaloids	: IR	: 08.02.89	: Japan
.Part A-Fundamentals & Techniques	: IR	: 08.02.89	: Japan
.Part B-Application	:	:	:
27. The Infrared Spectra Handbook of Intermediates	: IR	: 08.02.89	: Japan
28. Quantitative Column Liquid Chromatography	: IR	: 08.02.89	: Japan
29. Basic Gas Chromatography	: IR	: 08.02.89	: Japan
30. Chemical Methods in Gas Chromatography	: IR	: 08.02.89	: Japan

-----  
LSD - Office of Laboratory Services Division  
IR - Infrared Room

31. Handbook of Analytical Derivatization Reactions	:	Drug	:	08.02.89	:	Japan
32. High-Performance Liquid Chomatography in Forcnsic Chemistry	:	Drug	:	08.02.89	:	Japan
33. Reaction Detention in Liquid Chromatography	:	IR	:	08.02.89	:	Japan
34. Introduction to Modern Liquid Chromatography	:	Drug	:	08.02.89	:	Japan
35. Ion Pair Chromatography: Theory and Biological and Pharmaccutical Applications	:	Drug	:	08.02.89	:	Japan
36. Therapeutic Drug Monitoring and Toxicology by Liquid Chromatography	:	Drug	:	08.02.89	:	Japan
37. Chromatography Part A & B .Part A-Thin Layer Chromatography .Part B-Gas Liquid Chromatography and HPLC	:	IR	:	08.02.89	:	Japan
38. Mass Spectrometry in Environmental Sciences	:	IR	:	08.02.89	:	Japan
39. Mass Spectrometry, Data & Books, Registry of 7 Volumes	:	IR	:	08.02.89	:	Japan

-----  
IR - Infrared Room

-----

40. Practical Aspect of Gas Chromatography/Mass Spectrometry : IR : 08.02.89 : Japan
41. Veterinary Necropsy Procedures, 1983: All : 01.06.89 : Japan
42. Veterinary Virology, 1981 : All : 01.06.89 : Japan
43. The Domestic Rabbit, 4th ed. : All : 01.06.89 : Japan
44. Scientific Foundations of Veterinary Medicine, 1980 : All : 01.06.89 : Japan
45. United States Pharmacopeia, 1985 : Cosmetics : 07.18.89 : Phil.
46. Lange's Handbook of Chemistry 12th ed. : Cosmetics : 11.21.89 : Phil.
47. Chemical Dictionary 5th ed. : Foods : 07.18.89 : Phil.
48. Merck Index 10th ed. : Foods : 11.21.89 : Phil.
49. Medical Dictionary 26th ed. : Drug : 07.18.89 : Phil.
50. Textbook of Organic Medicinal & Pharmaceutical Chemistry, 18th ed. : Drug : 07.18.89 : Phil.
51. Martindale: The Extra Pharmacopeia 28th ed. : Drug : 11.21.89 : Phil.

-----

IR - Infrared Room  
 All - Animal House

-----

- 52. Official Methods of Analysis, : Toxicology : 11.24.89 : Phil.  
14th edition ;
- 53. Merck Index, 10th ed. : Toxicology : 09.22.89 : Phil.
- 54. The International Pharmacopeia, : Antibiotic : 11.09.89 : Phil.  
3rd ed. Vol. 3 WHO ;
- 55. British Pharmacopeia, 1980 : Antibiotic : 11.09.89 : Phil.  
Vol. I & II ;
- 56. Food Microbiology : Microbiology: 11.09.89 : Phil.
- 57. Lange's Handbook of Chemistry, : Research : 07.17.89 : Phil.  
13th ed. ;
- 58. Chemical Principles, 6th ed. : Research : 11.23.89 : Phil.
- 59. Nutrition: An Integrated Approach : Research : 11.23.89 : Phil.  
13th ed. ;
- 60. Instrumental Methods of Analysis : Research : 11:23:89 : Phil.  
6th edition ;
- 61. United States Pharmacopeia, 1985 : Research : 09.22.89 : Phil.
- 62. Goodman & Gilman Pharmaceutical : Regulation : 07.17.89 : Phil.  
Basis of Therapeutics : I ;

-----

63. Merck Index, 10th edition	:Regulation II:	07.20.89	: Phil.
64. United States Pharmacopcia, 1985	:Regulation II:	11.21.89	: Phil.
65. Remington Pharmaccutical Sciences	:Regulation II:	11.21.89	: Phil.
66. British Pharmacopeia, 1980 ed.	:Regulation II:	11.09.89	: Phil.
67. Epidomology Principles & Methods	: AH	: 07.17.89	: Phil.
68. Websters Medical Desk Dictionary	: AH	: 07.17.89	: Phil.
69. United States Pharmacopeia, 1985	: AH	: 07.17.89	: Phil.
70. General Veterinary Pathology	: AH	: 07.17.89	: Phil.
71. Veterinary Clinical Pathology 4th ed.	: AH :	: 07.17.89 :	: Phil. :
72. Hispatologic Techniques, 2nd ed.	: AH	: 07.17.89	: Phil.
73. Medical Pharmacology, 11th ed.	: AH	: 07.17.89	: Phil.
74. Animal Nutrition	: AH	: 07.17.89	: Phil.
75. The Anatomy of the Domestic Animals Vol. I	: AH :	: 07.17.89 :	: Phil. :
76. The Anatomy of the Domestic Animals Vol. 25th ed.	: AH :	: 07.17.89 :	: Phil. :

-----  
All - Animal House

77. Textbook of Veterinary Histology 3rd ed.	:	AH	:	07.17.89	:	Phil.
78. Veterinary Clinical Parasitology 5th edition	:	AH	:	07.17.89	:	Phil
79. Atlas of Cat Anatomy, 3rd ed.	:	AH	:	07.17.89	:	Phil.
80. Merck Veterinary Manual, 6th ed.	:	AH	:	09.21.89	:	Phil.
81. Veterinary Clinical Parasitology 5th ed.	:	AH	:	09.21.89	:	Phil.
82. Medical Dictionary, 26th ed.	:	AH	:	09.21.89	:	Phil.
83. Basic Pharmacology in Medicine 2nd ed.	:	AH	:	09.21.89	:	Phil.
84. Webster's 20th Century Dictionary 2nd edition	:	AH	:	09.21.89	:	Phil.
85. Veterinary Necropsy Procedures 1983	:	AH	:	01.13.90	:	Phil.
86. Veterinary Medicine 6th edition	:	AH	:	01.13.90	:	Phil.
87. Veterinary Virology 1981	:	AH	:	01.13.90	:	Phil.
89. The Domestic Rabbit	:	AH	:	01.13.90	:	Phil.
90. Scientific Foundation of Veterinary Medicine 1980	:	AH	:	01.13.90	:	Phil.
91. Guidebook in the Proper use of Medicinal Plant	:	AH	:	01.13.90	:	Phil.

-----  
 All - Animal House

92. United States Pharmacopeia, 1985 : Region I : 12.15.89 : Phil.  
 93. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region I : 12.15.89 : Phil.  
 Substances 1986 ; ;  
 94. United States Pharmacopeia, 1985 : Region VI : 11.08.89 : Phil.  
 95. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region VI : 11.08.89 : Phil.  
 Substances 1986 ; ;  
 96. United States Pharmacopeia, 1985 : Region VII : 11.15.89 : Phil.  
 97. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region VII : 11.15.89 : Phil.  
 Substances 1986 ; ;  
 98. United States Pharmacopeia, 1985 : Region VIII: 12.15.89 : Phil.  
 99. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region VIII: 12.15.89 : Phil.  
 Substances ; ;  
 100. United States Pharmacopeia, 1985 : Region X : 11.09.89 : Phil.  
 101. United States Pharmacopeia, 1985 : Region XI : 12.15.89 : Phil.  
 102. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region XI : 12.15.89 : Phil.  
 Substances, 1986 ; ;  
 -----  
 Region I - San Fernando, Region VIII - Tacloban City.  
 La Union Region X - Cagayan de Oro City  
 Region VI - Iloilo City Region XI - Davao City  
 Region VII - Cebu City

Page 10

-----

103. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region V : 02.15.90 : Phil.  
Substances 1986 :

104. United States Pharmacopoeia, 1988 : Region V : 02.15.90 : Phil.

105. Basic Test for Pharmaceutical Test : Region IX : 02.15.90 : Phil.  
Substances 1986 :

106. United States Pharmacopoeia, 1988 : Region IX : 02.15.90 : Phil.

-----

Region V - Dicol

Region IX - Zamboanga City

rita/02-06-90

22 February 1990  
Audio-Visual Room,  
Bureau of Food and Drugs

DOCUMENTATION ON JICA-BFAD ADVISORY MISSION MEETING

The Meeting started at 9:00 A.M. at the Audio-Visual Room of Bureau of Food and Drugs Building, Alabang, Muntinlupa, attended by the Director and all Division Heads of Bureau of Food and Drugs (BFAD). In the afternoon 1:30 P.M., the Unit Heads of the different divisions attended the meeting.

- I. Dr. Gonzalez formally welcomed the Japanese Advisory Mission. Before she introduced the members of BFAD Division Heads (Annex I) she stated the purpose of the meeting:
  1. To explore the possibilities of the BFAD-JICA joint project.
  2. To review further the project as well as to get report from both side as the progress of the project.
  3. To discuss the constraints, problems and to make recommendations and suggestions needed to make this project successful joint endeavour.
- II. Mr. Egashira, JICA Staff of Medical Corporation Division, introduced the members of the JICA Advisory Mission (Annex II).
- III. Dr. Gonzalez briefly gave the background how the new National Drug Policy (NDP) was created. (Annex III)

IV. After the Mission was briefed on NDP, Mr. Castillo reported the Activities Undertaken in the year 1989 based on the last year Minutes of Discussion:

4.1 The Bureau has complied with the counterpart trainings for 1989 as scheduled.

4.2 (1) All necessary staff members were appointed in each divisions.

(2) At present the BFAD cannot hire permanent engineer and technicians due to existing government policy. The services of the private companies are hired to maintain the equipments and instruments. The local suppliers were called when serious trouble occurs in the equipment.

(3) A Food and Drug Superintendent was appointed as in-charge of the maintenance and care of all equipments and instruments.

4.3 Request for additional Storage House for Animal and Chemicals is now undergoing.

4.4 Dr. Nakaso, JICA Expert assigned in Animal Experimental House discussed the HEPA Filter system and Exhaust Fan as requested by the Philippine side.

(1) HEPA Filter system is pending.

(2) Exhaust fans - Mr. Yamashita of Sumitomo repair the filter of the airconditioning. The use of exhaust fan will cause the return of air into the airconditioning unit and it may cause problem. At present several test on the repaired filter of aircondition

unit still needed to get results.

Mr. Egashira also mentioned that some parts of the airconditioning unit will be changed but to change the whole airconditioning unit will be very expensive.

5. The request of the Philippine side for improvement of the water supply system have been made. It may cost 8 million yen through the grant aid since the budget in Medical Corporation Division is mainly technical aid.

V. Mr. Egashira briefly reviewed the progress of the project for 1989.

1. Counterpart Training - four (4) BFAD staff have completed their training in Japan.

- 1.1 Dr. Carlito Calderon - Biological Assay
- 1.2 Ms. Emma Cabello - Food Poisoning Bacteria
- 1.3 Ms. Rosario Martin - Food Container and wrapping
- 1.4 Ms. Remedios Pascual - Cosmetic Analysis

On May, JICA will be ready admitting trainees in Drug Administration.

## 2. Experts

- 2.1 Dr. Ujiie - Team Leader
- 2.2 Mr. Tasaka - Project Coordinator
- 2.3 Dr. Nakaso - Animal Production and Breeding
- 2.4 Dr. Nishigaki - Bioassay and Toxicology
- 2.5 Dr. Miura - Chemical Analysis

- 2.6 Mr. Sotohebo - Food Inspection
- 2.7 Mr. Nakajima - Food Inspection
- 2.8 Mr. Murata - Drug Inspection
- 2.9 Mr. Senda - Drug Inspection
- 2.10 Mr. Orita - Drug Inspection
- 2.11 Mr. Nakatsuka - Drug Inspection

VI. The Division Heads expressed their view about the project, Mrs. Alba, Chief, Laboratory Services Division, is thankful for the trainings given to her staff. The knowledge gained by her staff through the trainings has contributed in the improvement in the analysis of Food and Drugs. The JICA donated equipments were all used and necessary but BFAD still needs the help of JICA especially the equipments. Ms. Alcantara, Chief, Regulation Division II, the training acquired by the trainees in inspection are very informative and are applied to present time.

Dr. Gonzalez, also expressed her gratitude about the trainings given to BFAD staff which help in the improvement of Food and Drug standards and analysis. However, she suggested some recommendations such as information on the following will be specified before the trainees will be send to Japan:

1. Details of the Course
2. Specific Areas that the training will be focus on.

Dr. Gonzalez also request that the trainings will also focus on Drug Administration in order for them to suggest on certain aspect vital to Drug Administration in the Philippines. At this point, BFAD have no complaints with the Japanese Experts based here. Excellent communication is established between the BFAD staff and the Experts. BFAD is always open to their recommendations, suggestions and needs. They are the best persons who can communicate and explain to the Mission about the BFAD's concern and needs specifically during the critical time of NDP.

The Japanese Experts expressed their impression to BFAD. They enjoyed their stay and also learned from the BFAD staff. However, they encountered minor problems such as:

1. Limited time of work. The 8 hours is not enough to finish the work for the day.
2. Techniques, mechanics of test should be clarified especially in Toxicity tests.
3. The equipments and instruments in Animal House is inadequate.
4. More technicians are needed to maintain equipments and instruments.
5. Some instruments needs repair.

VII. With regards to Animal House, Japanese side wish to continue the transfer of technology for animal production and make revisions of techniques for toxicological testing such as biological assay. There is a need to finish initial

period of training between the Technical Cooperation so as the Animal House can produce many Toxicology test, Pathological testing , Bio-chemical testing. The need to expand the services of Animal House is expected. If the Japanese side cannot set up and transfer technology to Animal House, BFAD may experience difficulty in setting up Toxicological Section. In 1985 meeting between Dr. Hashimoto and Dr. Bengzon, Dr. Hashimoto made a promise to Dr. Bengzon that the Japanese Government will build a modern Toxicological Laboratory for the Philippines and the Japanese would like to fulfill that promise.

Dr. Gonzalez, acknowledges the 1985 agreement. BFAD envisioned to be one of the best research center in the country, since no government and private agency existed to have a modern toxicological research laboratory. Dr. Gonzalez also believed the great importance of laboratory research center especially for BFAD which one of the function is to analyze food and drug product. However, constraints hold them to continue with the planned research center.

1. Lack of manpower - due to government policy they are not allowed to hire more staff.
2. Lack of Budget - the Philippine government as of now cannot provide BFAD bigger budget.
3. BFAD main function at present is the implementation of the National Drug Policy.

Dr. Gonzalez reiterates that BFAD needs the JICA's support because without it, BFAD could not function very well. She expressed that in the future after all the constraints she mentioned earlier will be lifted, she like to see a modern research center probably the best in Asia with in BFAD.

VIII. Mrs. Alba reports to the Mission that the trainees gives echo seminar to the other staff of what knowledge they have acquired in Japan. These trainees are also helping other regional staff who are undergoing training for Mini-Laboratory in the regions. JICA is supporting this mini-project in the form of textbooks which is very important.

IX. Mr. Egashira mentioned to the panel that the project will end on July 20, 1991. The Mission are not in position to decide whether to extend the project or not. Evaluation Team will come early next year (1991) to evaluate and discuss the future of the project. The Philippine side request the extension of Mr. Tasaka as Project Coordinator up to the end of the project, July 1991.

X. Japanese Experts will be dispatched with in this year to repair the equipments.

XI. Future Plans

I. 1990 conterpart trainings are as follows:

1.1 Alexander Cortes - Biological Assay

1.2 Ma. Victoria Pabua - Food Additive accepted by  
National Institute of Hygienic  
Sciences

1.3 Marilou Martinez - Natural Toxicant accepted by  
National Institute of  
Hygienic Sciences

1.4 Edwin Villeza - Stability Testing accepted  
by National Institute of  
Hygienic Sciences

The Drug Administration trainees will wait for the JICWEL with regards to their schedule.

2. Request of Philippine side of Transportation Vehicles -  
As to request of BFAD transportation, the Japanese side have the difficulty in providing the request vehicles. They suggested that the BFAD make a request for the use of inspection of food and drugs inspectors.

3. Mr. Castillo informed the panel that only two (2) vehicles are assigned for the use of seventy (70) food and drug inspectors. This covers the 6 million population in Metro Manila alone. BFAD needs a type of vehicle with 25 person capacity, because it will also serve as a shuttle bus for the BFAD staff to and from the office to the place where they can easily get a ride home.

4. Budget

Mr Castillo also reported that 1990's budget have increased from 17 million in 1989 to 18,941 million. The 29 million budget BFAD have requested for 1989 was not approved and only 17 million was allotted to the Bureau.

This year increase in budget is attributed to maintenance which involves transportation, chemical/office supplies, light/power, repair and other expenses. Part of the budget are allotted for Office equipments such as typewriters. The budget for laboratory equipments cannot cover the laboratory needs. Mr. Egashira asked for a copy of budget from 1987 and BFAD organizational chart.

5. Repair of Equipments

Ms. Martin, Head of Toxicology Section request for training on trouble shooting and maintenance of laboratory equipments. The laboratory staff should have knowledge in respect to the maintenance.

The Japanese side answered that to repair high technology equipments may be difficult. The trend now in Japan is that they will call the engineers once their equipments needs repair.

Mrs. Alba reiterates what they have discussed earlier, that BFAD have agreement with local companies to repair and maintain the equipments. However, she supported Ms. Martin's suggestion that some staff should have little knowledge in trouble shooting to save time.

6. Animal House

Dr. Gutierrez reports on Animal House. Animal House has been in existence for only 2 years, new field for veterinarians. Dr. Nishigaki have taught them a lot, especially toxicity tests in different routes. As of now they need equipments for their work.

7. Ms. Lucero, head of Food Section , discussed with Dr. Miura that the training they need in her section is about Food Additives.
  8. Ms. Dy, head of Food Microbiology Section, reports that they are now starting to work in hysteria and other pathogenic organism with the help of the two staff that were trained in Japan.
  9. Ms Elvena, head of Drug Section, the training of her staff in Japan has improve the work in her division.
- II. Experts to be dispatch to BFAD in 1990.
- 3.1 Two (2) Breeding Experts (1 in Rabbit Breeding and 1 in Guinea Pig Breeding).
  - 3.2 Animal Control Expert
  - 3.3 Two (2) Microbiology Experts - 2 months probably on  
May.
  - 3.4 Two (2) Cosmetic Analysis Expert
  - 3.5 Instrumental Analysis of Drug and Preparation of  
Different Standards Expert

In conclusion, The Philippine side expressed their gratitude to the Cooperation undertaken together. The Project is followed as scheduled and BFAD has availed all training program offered and now applying to BFAD needs. Dispatched experts has contributed very much to the development of the Bureau. General plans for will be discussed upon consultation with particular division heads and Unit Heads.

rita/hieidi

ANNEX I

B F A D    S T A F F

DR. CECILE P. GONZALEZ	- Director
MS. OFELIA ALBA	- Chief, Laboratory Division
MR. RODRIGO CASTILLO	- Chief, Administrative Division
MS. ELISA CABALLERO	- Chief, Drug Information Unit
ATTYL LORNA CABANLAS	- Chief, Legal Division
MS. MERCED USON	- Representative Regulation Div. I
MS. TEODORA ALCANTARA	- Chief, Regulation Division II
DR. CORAZON RIVERA	- OIC Product Services Division
MS. ROSARIO MARTIN	- Head, Toxicology Section
MS. CARMINA PARCE	- Head, Research Section
MS. ISABEL DY	- Head, Food Microbiology
MS. ALICIA SALAZAR	- Head, Antibiotic Section
MS. JOSEFA LUCERO	- Head, Food Section
MS. ALICE LORENZO	- Head, Cosmetic Section
MS. ELISEA ELVEÑA	- Head, Drug Section

/hmf

## JICA/BFAD ADVISORY MISSION

1. Dr. MASAHIRO MIZUTANI  
Deputy Director-General  
Hatano Research Institute - Leader & Microbiology Field
2. Dr. MITSUHARU TAKEDA  
Head, Division of Environmental Chemistry  
National Institute of Hygienic Sciences - Chemical Analysis of Food and Drugs
3. Dr. KIYOSHI IMAI  
Head, Pathological Laboratory  
Food and Drug Safety Center - Care and Breeding of Experimental Animals and Toxicological Examination and Bioassay
4. Mr. KYOJI FUJII  
Senior Staff, Food Sanitation Division  
Environmental Health Bureau  
Ministry of Health & Welfare - Inspection and Evaluation
5. Mr. EIJI EGASHIRA  
Staff, Medical Cooperation Division  
Medical Cooperation Department  
Japan International Cooperation Agency - Technical Cooperation
6. Dr. ATSUKO UJIIE - Project Team Leader
7. Dr. TAKAKO MIURA  
Chemical Analysis - JICA Expert
8. DR. TOSHIAKI NISHIGAKI  
Toxicological Assay - JICA Expert
9. Dr. MASATSUGO NAKASO  
Animal Care & Breeding - JICA Expert
10. Mr. ATSUSHI TASAKA - Project Coordinator

MINUTES OF THE DISCUSSIONS  
BETWEEN THE JAPANESE ADVISORY SURVEY TEAM  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF  
THE REPUBLIC OF THE PHILIPPINES  
ON THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR THE FOOD AND DRUGS LABORATORIES PROJECT

The Japanese Advisory Survey Team ( hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency, headed by Dr. Masahiro Mizutani visited the Republic of the Philippines from 16 to 24 February 1990, for the purpose of reviewing the activities concerning the Food and Drugs Laboratories Project ( hereinafter referred to as "the Project").

During its stay in the Republic of the Philippines, the Team observed the over-all progress and exchanged views and had a series of discussions with the Philippine authorities concerned about evaluation and a further implementation of the Project.

As a result of the discussion, both sides confirmed the items which are described in the attachment.

Manila, 23 February 1990

*M. Mizutani*

Dr. Masahiro Mizutani  
Leader,  
Advisory Survey Team,  
Japan International Cooperation,  
Agency(JICA)  
JAPAN

*C. P. Gonzalez, ms*

Dr. Cecile P. Gonzalez  
Director,  
Bureau of Food and Drugs,  
Department of Health,  
The Republic of the Philippines

ATTACHMENT

1. The cooperation programme under the Project from FY1986 to FY1989 has been carried out as shown in Annex I.
  2. The Technical Cooperation Programme will continue on the basis of the objectives stated in the Record of Discussions signed on 25 July 1986, although the National Drug Policy of 1987 may affect the programme.
  3. The tentative schedule of implementation modified on 8 December 1988 is remodified as shown in Annex II.
  4. The cooperation activities in FY1990 shall be carried out in line with the Annual Work Plan as shown in Annex III.
  5. In order to carry out the Project more smoothly and fruitfully, both sides shall continue to make their best efforts concerning the matters below:
    - 5.1 For the progress of effective technical cooperation, the Japanese side recommended that the measures to be taken by the Philippine side are as follows:
      - 5.1.1 To secure enough budget for each division/section for maintenance and other operating expenses
      - 5.1.2 To appoint appropriate number of staff in each section.
    - 5.2 The Japanese side requested the Philippine side for a more efficient and effective transfer of technology by counterpart trainees.
    - 5.3 The Philippine side submitted the draft proposal to the Japanese side in connection with the content of Technical Cooperation for the Japanese Fiscal Year 1990, as indicated hereunder:
      - 5.3.1 Counterpart training on Drug Inspection
      - 5.3.2 Counterpart training on Antibiotics analysis
- The Japanese side mentioned that the proposal will be studied by the concerned institutions in Japan for possible implementation.

*M.M.*

*CPN*

- 5.4 The Philippine side requested the Japanese side for the urgent provision of the following:
- 5.4.1 Distillation set-up for the use of the Laboratory Services Division.
  - 5.4.2 Humidistat for the testing area in the Experimental Animal House.
  - 5.4.3 Vehicle for the use of the Food - Drug Regulation Officers in the inspection and evaluation activities.
6. The request of the Philippine side with regards to the equipment for FY 1990 has been studied by the Japanese side. The final decision on the priorities of the equipments will be made by the Philippine side with the assistance of the Japanese side and within the range of the Japanese budget.

*M.M.*

*CM*

ANNEX I. COOPERATION ACTIVITIES FROM FY1986 TO FY1989

Note: \* provisional

1. ANIMAL CARE AND CONTROL

a. dispatch of Japanese experts

Dr. Hiroshi Ono	cooperation planning (equipment)	11.4-11. 8. 1986
Dr. Tsuneo Otaki	feed materials	11.4-11.12. 1986
Mr. Yoshiki Taguchi	"	11.4-11.17. 1986
Mr. Hisashi Fushiya	"	"
Mr. Matsatsugu Nakaso	animal control	10. 7. 1986 - 10. 6. 1990
Dr. Minoru Izutsu	animal control	4.21 - 5.14. 1988
Mr. Susumu Kusaka	feed preparation	5.27 - 6.10. 1988
Mr. Hiroshi Usui	"	"
Dr. Kazuki Yamaguchi	animal breeding	3.6 - 3.18. 1989
* (not yet definite)	"	2 weeks in March, 1990

b. Philippine counterpart training in Japan

Mr. Oscar G. Gutierrez	animal care and control	3.29-9.28. 1987
Mr. Albino B. Billones	"	"

2. TOXICOLOGICAL EXAMINATION AND BIOASSAY

a. dispatch of Japanese experts

Dr. Nobuyuki Ogawa	bioassay	11.28. 1988 - 12.10. 1988
Dr. Toshiaki Nishigaki	"	4.25. 1989 - 7.24. 1989
"	"	10.25. 1988 - 7.24. 1991

*M.M.*

*CMV*

b. Philippine counterpart training in Japan

Ms. Dory Duran	bioassay	10.13. 1987 - 3.29. 1988
Dr. Carlito J. Calderon	"	7.25. 1989 - 1.30. 1990

3. MICROBIOLOGY

a. dispatch of Japanese experts

Dr. Shigeo Iwahara	cooperation planning (equipment)	11. 4. 1986 - 11.12. 1988
"	microbiology in general <Team Leader>	4.18. 1987 - 9.17. 1987
Dr. Atsuo Ujiie	microbiology in general <team Leader>	5.25. 1988 - 5.24. 1990
Dr. Kosuke Takatori	mycology and electron microscopy	9. 21.1987 - 10.9. 1987
"	"	11.28. 1988 - 12.10. 1988
Dr. Satoshi Mizuno	antibiotics	8.3. 1988 - 8.17. 1988

b. Philippine counterpart training in Japan

Ms. Carmina J. Parce	mycology and electron microscopy	10.13. 1987 - 3.29. 1987
Ms. Zenaida T. Baumann	antibiotics	11.29. 1988 - 7.4. 1989
Ms. Emma D. Cabello	food poisoning bacteria	7.25. 1989 - 1.30. 1990

4. PHYSICOCHEMICAL ANALYSIS OF FOOD

a. dispatch of Japanese experts

Dr. Yukio Saito	cooperation planning (equipment)	11.4. 1986 - 11.12. 1986
-----------------	-------------------------------------	-----------------------------

*M.M.*

*CAV*

Dr. Takashi Suzuki	cooperation planning	2.24. 1987 - 3.5. 1987
"	pesticides	10.14. 1988 - 12.13. 1988
"	"	1.17. 1989 - 1.26. 1989
Dr. Takashi Yamada	Food analysis	1.27. 1988 - 2.10. 1988
Dr. Tadashi Shibata	"	"
"	Food additives	7.7. 1988 - 10.6. 1988
b. Philippine counterpart training in Japan		
Ms. Ofelia M. Alba	pesticides	3.29. 1987 - 9.28. 1987
Ms. Alicia T. Lorenzo	food additives	5.5. 1987 - 9.28. 1987
Ms. Amelita P. Manalansan	pesticides	3.14. 1989 - 11.6. 1989
Ms. Rosario E. Martin	food container and wrapping	4.11. 1989 - 11.6. 198

## 5. PHYSICOCHEMICAL ANALYSIS OF DRUGS

### a. dispatch of Japanese experts

Dr. Yasushi Takeda	cooperation planning (equipment)	11.4. 1986 - 11.12. 1986
Dr. Toshio Shibasaki	cooperation planning	2.24. 1987 - 3.5. 1987
"	physicochemical test (general)	5.17. 1987 - 11.16. 1988
Dr. Hiroshi Ogata	biopharmacy	8.8. 1987 - 8.14. 1987

*M.M.*

*CMV*

Dr. Satoshi Okada	instrumental analysis & reference standards	1.27. 1988 2.10. 1988	-
Dr. Mitsuharu Takeda	cosmetics analysis	8.3. 1988 8.17. 1988	-
Dr. Takako Miura	drug analysis	8.8. 1989 9.7. 1989	-
"	"	12.18. 1989 12.17.1990	-

b. Philippine counterpart training in Japan

Ms. Nazarita T. Lanuza	instrumental analysis of drugs and preparation of reference standards	2.6. 1989 8.15. 1989	-
Ms. Remedios R. Pascual	chemical analysis of cosmetics	4.11.1989 11.6. 1989	-

6. INSPECTION AND EVALUATION

a. dispatch of Japanese experts

Dr. Shuji Ota	cooperation planning (food)	1.27. 1988 2.10. 1988	-
Dr. Ikuo Tsukamoto	inspection of import & export of food	6.29. 1988 7.26. 1988	-
Dr. Satoru Sakai	"	11.29. 1988 12.13. 1988	-
Mr. Tadashi Sotohebo	"	8.8. 1989 8.28. 1989	-
Mr. Kensuke Nakajima	"	2.7. 1990 3.6. 1990	-
Mr. Susumu Doi	cooperation planning (drugs)	1.12. 1988 1.20. 1988	-
Mr. Katsu Kobayashi	"	"	
Mr. Hiroataka Mashimo	"	"	

*M. M.*

*CA*

Mr. Takeshi Kotani	inspection and evaluation of drugs	6.29. 1988 - 12.13. 1988
Mr. Kiichiro Shiraishi	"	"
Mr. Shigeyoshi Yunoki	"	11.29. 1988 - 12.13. 1988
Mr. Takeo Yamamoto	"	"
Mr. Toshiro Murata	"	8.8. 1989 - 8.22. 1989
Mr. Atsuhiko Senda	"	"
Mr. Soji Nakatsuka	"	2.20. 1990 - 3.6. 1990
Mr. Yoshio Orita	"	"

b. Philippine counterpart training in Japan

Ms. Estrellita A. Dulle	inspection & evaluation of drugs	3.22. 1988 - 4.21. 1988
Ms. Lucia S. Valencia	"	8.8. 1988 - 9.7. 1988
*( Ms. Alicia D. Fernandez	"	one month from March 1990)
*( Ms. Matilde M. Gener	"	" )
Ms. Gloria W. Pena	inspection of import export of food	9.16. 1986 - 12.19. 1986
	(JICA group training course)	
Ms. Lilia E. Garcia	"	8.29. 1988 - 12.8. 1988
Ms. Eusebia Regodon	Pharmaceutical affairs	7.4. 1988 - 8.6. 1988
	(JICWELS study programme)	
Ms. Lucia S. Valencia	"	"
Ms. Marietta M. Bautista	"	5.29. 1989 - 7.1. 1989
Ms. Josie O. Gaspar	"	"

*M.M.*

*CAF*

7. OTHER FIELDS

a. dispatch of Japanese experts

Dr. Shigeo Iwahara	team leader	4.18. 1987	-
		10.17. 1987	
Dr. Atsuo Ujiie	"	5.25. 1988	-
		5.24. 1990	
Dr. Atsushi Tasaka	coordinator	4.25. 1987	-
		4.24. 1990	

b. Philippine counterpart training in Japan

Mr. Rodrigo A. Castillo	plant operation	3.22. 1988	-
		6.25. 1988	

*M.M.*

*CAH*

ANNEX II TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION OF THE FOOD AND DRUGS LABORATORIES PROJECT ( as of February, 1988 )

	FY 1988	FY 1987	FY 1988	FY 1989	FY 1990	FY 1991
Survey team	Implementation	Planning, consultation '87.12 - '87.12	Advisory survey team '88.12 - '88.12	Advisory survey team '89.02 - '89.02	Evaluation	
C/P Training in Japan	(a)	'87.3 Animal care & control				
	(b)	'87.10 Biological assay		'89.7 Biological assay	Biological assay	
	(c)	Sterility test, Mycology '87.10	Antibiotics '88.11	Antibiotics '89.7	Food poisoning bacteria	
	(d)	'87.5 Food additives Pesticides	'88.5 Food container & wrapping '89.3 Pesticides	'89.4 Food container & wrapping '90.4 Pesticides	Food additives Natural toxicant	
	(e)	'87.3	Instrumental analysis & preparation of reference standards '88.4	'89.4 Cosmetics analysis '89.4 Preparation of reference standards	Stability test	
	(f)	Food inspection '88.9	Food inspection '88.5	Drug administration '88.4	Food inspection '89.4	Stability test Drug administration Drug administration '90.3
(g)		Plant operation '88.4	Plant operation '88.4			
Team Leader Coordinator	'87.4	'87.4	'88.5			
Japanese Expert	(a)	Planning '86.11	Animal control '87.10	Animal control '88.5	Animal production '89.10	Animal breeding
	(b)	Planning '86.11	Food preparation '88.5 (2)	Breeding (rabbit) '88.3	Breeding (rabbit)	Animal breeding
	(c)	Planning '86.11	Animal control '88.4	Animal control '88.4	Animal control	Animal control
	(d)	Planning '86.11	Bioassay, Toxicological test '88.11	Bioassay, Toxicological test '88.11	Toxicological test, Bioassay '89.10	Toxicological test, Bioassay
	(e)	Planning '87.2	Antibiotics '88.8	Antibiotics '88.8	Antibiotics '88.8	Antibiotics '88.8
	(f)	Planning '87.2	Mycology, Electron microscope '88.11	Mycology, Electron microscope '88.11	Mycology, Electron microscope '88.11	Mycology, Electron microscope '88.11
Equipment	(a)	Planning '86.11	Food additives '88.7	Food additives '88.7	Food container & wrapping	Stability test
	(b)	Planning '86.11	Food analysis '88.1 (2)	Pesticides '88.10	Yeast '88.10	Stability test
	(c)	Planning '86.11	Physicochemical test in general '87.5	Physicochemical test in general '88.6	Physicochemical analysis of drugs '88.12	Instrumental analysis & preparation of reference standards '88.12
	(d)	Planning '86.11	Biopharmacy, Drugs analysis '88.1	Cosmetic analysis '88.8	Cosmetic analysis '88.8	Instrumental analysis & preparation of reference standards '88.12
	(e)	Planning '86.11	Inspection of import & export, specifications & standards '88.1	Inspection of import & export, specifications & standards '88.1	Inspection and evaluation '89.8	Inspection and evaluation '89.8
	(f)	Planning '86.11	'88.2 (2)	'88.2 (2)	'89.8 (2)	'89.8 (2)
	Necessary equipment will be provided within the budget allocation of the Government of Japan in response to the application from the Government of the Republic of the Philippines					

\* (a) Care & breeding of experimental animals, (b) Bioassay and Toxicological Test (c) Microbiological examination (d) Physicochemical analysis of food  
 \* (e) Physicochemical analysis of drugs (f) Development of systems in the inspection and evaluation of food & drugs (g) Others  
 \* "Drugs" can include cosmetics

M. 972.

CAN

ANNUAL WORK PLAN  
FOR  
THE FOOD AND DRUGS LABORATORIES PROJECT

Fiscal Year 1990

## 1. Counterpart Training in Japan

Biological assay ----- 1 person (6 months from June, 1990)  
 Food additives ----- 1 person (6 months from April, 1990)  
 Natural toxicant ----- 1 person (6 months from April, 1990)  
 Stability test ----- 1 person (6 months from April, 1990)  
 [Drug administration ---- 1 person (1 month)]  
 [Food inspection ----- 1 person (3 months from  
 September, 1990)]

## II. Japanese Expert

[Team Leader ----- 1 person (2 years from May, 1988)]  
 Team Leader ----- 1 person (1 year & 2 months from  
 May, 1990)  
 [Coordinator ----- 1 person (3 years from April, 1987)]  
 Coordinator ----- 1 person (1 year & 3 months from  
 April, 1990)  
 [Animal control ----- 1 person (3 years from October, 1987)]  
 Animal production ----- 1 person (9 months from October, 1990)  
 Breeding (guinea pig)---- 1 person (1 month from May 1990)  
 Breeding (rabbit)----- 1 person (1 month from November, 1990)  
 Animal control ----- 1 person (1 month from September, 1990)  
 [Bioassay & Toxicological test  
 ----- 1 person (1 year & 9 months from  
 Oct., 1990)]

*M. M.**CPV*

Microbiology ----- 2 persons (one for 2 months  
from May, 1990 &  
the other for 3  
weeks in January, 1991 )

Food container and wrapping - 2 persons (one for 2 months  
from October, 1990  
& the other for  
1 month from  
January 1991)

Mycotoxin ----- 1 person (2 weeks in January, 1991)

[Physicochemical analysis of drugs  
----- 1 person (1 year from December, 1989)]

Instrumental analysis of drugs & preparation of referece standard  
----- 1 person (1 month from July, 1990)

Instrumental analysis of drugs & preparation of reference standard  
----- 2 persons (1 for 2 weeks in Oct., 1990  
the other for 2 months from  
Oct., 1990)

Cosmetic analysis ----- 2 persons (1 for 2 months from Oct., 1990  
the other for 1 month from Jan.  
1991)

Inspection & evaluation of food  
----- 2 persons (1 for 4 weeks in June, 1990  
the other for 4 weeks in Nov.,  
1990)

Inspection & evaluation of drugs  
----- 4 persons (2 for 2 weeks in June , 1990  
& the others for 2 weeks in  
Nov., 1990)

### III Provision of equipment

Necessary equipment will be provided by JICA for the Project  
within the range of Japanese Budget.

*M.M.*

*CPH*

JICA